ふくおか学力アップ推進事業
実践事例集 vol.4

平成28年3月
福岡県教育委員会

はじめに

福岡県教育委員会では、平成１９年度の全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった課題を踏まえ、平成２０年度から「ふくおか学力アップ推進事業」を実施してまいりました。

本事業では、市町村教育委員会に対する支援を通して、県全体の学力向上を図るとともに、学力向上推進強化市町村（以下「強化市町村」という。）に対して、非常勤講師の派遣や学力向上施策に対する経費補助等を行い、地域間の学力差の解消に努めてまいりました。

本事例集は、平成２６年度に指定した１８強化市町村の教育委員会や各強化市町村が指定している学力向上推進校で実施された効果的な取組を紹介しています。平成２７年度においては、強化市町村全体で小・中学校共に４つの教科区分のうち３つの教科区分で全国平均との差を縮めるなどの成果が表れています。

各市町村教育委員会におかれましては、是非、これらの実践事例を参考にして、それぞれの実情・実態に応じた学力向上の取組をなお一層推進されますようお願いします。

平成２８年３月

福岡県教育委員会

目　　次

はじめに

1　ふくおか学力アップ推進事業について

ふくおか学力アップ推進事業【義務教育課】　1

2　学力向上推進強化市町村の学力向上の取組事例

（1）市町村及び学校における教員研修

市町村及び学校における教員研修【義務教育課】　2

ア　学力向上への意識を高めさせる教員研修　【築上町教育委員会】　3

イ　学力向上のための校内研修　【添田町教育委員会（小学校）】　5

（2）学校における学力向上の取組

検証改善サイクルの確立【義務教育課】　7

ア　学力向上プランや全国学力・学習状況調査等を活用した検証・改善サイクル　【大刀洗町教育委員会（中学校）】　8

イ　教材集、診断テストを活用した学習指導を行う工夫　【糸田町教育委員会（中学校）】　10

非常勤講師の効果的な活用【義務教育課】　12

ウ　国語科における非常勤講師を生かした指導の工夫　【香春町教育委員会（小学校）】　13

エ　算数科における非常勤講師を生かした習熟度別指導等の工夫　【桂川町教育委員会（小学校）】　15

オ　数学科における非常勤講師を生かした習熟度別指導等の工夫　【吉富町外一市中学校組合（中学校）】　17

カ　国語科、算数・数学科以外の非常勤講師の活用で学力向上に生かした指導等の工夫　【赤村教育委員会（小学校）】　19

小中で連携した取組【義務教育課】　21

キ　小中連携した学力向上の工夫　【直方市教育委員会、田川市教育委員会】　22

（3）放課後、土曜、長期休業中の取組

放課後、土曜、長期休業中等、基礎基本を中心とした取組【義務教育課】　26

ア　放課後の補充学習や土曜、長期休業中における取組（放課後）　【川崎町教育委員会（小学校）】　27

イ　放課後の補充学習や土曜、長期休業中における取組（土曜、長期休業中）　【嘉麻市教育委員会】　29

ウ　基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習等の徹底した指導　【大牟田市教育委員会（小学校）、福智町教育委員会（小学校）】　31

（4）学習習慣形成のための家庭学習の取組

学習習慣形成のための家庭学習の取組【義務教育課】　35

ア　学習の定着・習慣化を図る取組　【みやこ町教育委員会（中学校）】　36

イ　家庭学習の定着をめざす家庭学習実施サイクルの構築【うきは市教育委員会】　38

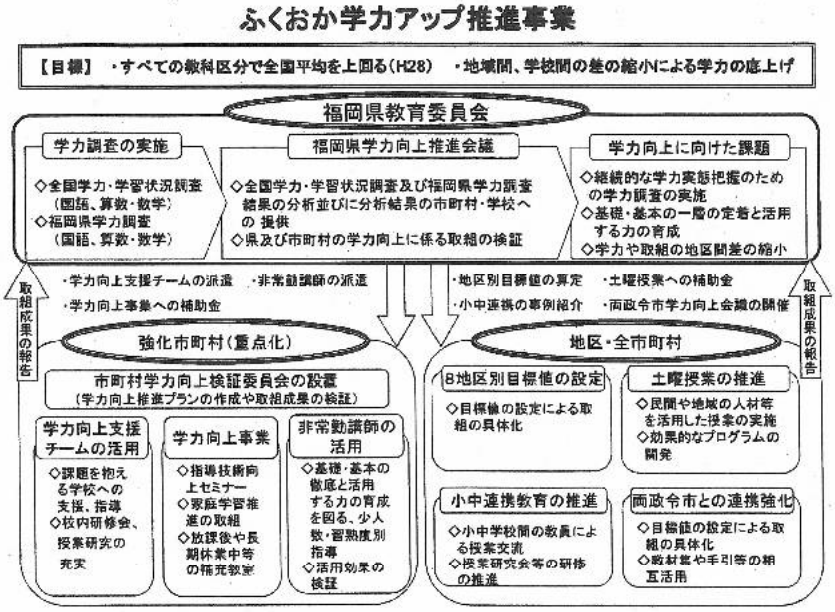
ウ　小中連携等した家庭学習充実の具体・指導　【水巻町教育委員会、大任町教育委員会】　40

1　ふくおか学力アップ推進事業について

ふくおか学力アップ推進事業

■　事業の目的

「ふくおか学力アップ推進事業」は県下の児童生徒の学力・学習状況を調査分析し、有効な施策を提供することで、市町村の実態に即した主体的な取組を支援して児童生徒の学力の向上を図るとともに、地域の学力差の是正を図ることを目的として平成２０年度から実施している事業です。



■　事業内容

１　児童生徒の学力実態の把握と分析

県教育委員会は、県内の児童生徒の学力・学習状況と市町村の学力向上に向けた取組状況を調査分析するために、学力調査を実施し、その結果を分析して報告書にまとめ、市町村教育委員会や学校に提供しています。

２　学力向上推進強化市町村の指定

県教育委員会は、学力等に関する課題を明確にし、学力向上に主体的に取り組もうとする市町村のうち、強化市町村を指定し、次の支援を行っています。

◇　非常勤講師の派遣

児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を充実させ、学力の向上を図ることができるよう強化市町村に非常勤講師を派遣する。

平成２７年度は、計５５８６０時間（週１２時間×３５週で１３３名分）を強化市町村の学校数等に応じて配置して活用している。

◇　学力向上支援チームの派遣

教育事務所に設置する学力向上支援チームを強化市町村や学校に派遣し、学力向上の実態分析やそれに基づく推進計画、具体的取組等に関する指導・支援を行う。

◇　学力向上施策への支援

強化市町村が実態に応じて独自に行う学力向上の取組について、その経費の２分の１以内の額を予算の範囲内において補助する。

学力向上推進強化市町村（Ｈ２６～Ｈ２８）１７市町村１学校組合

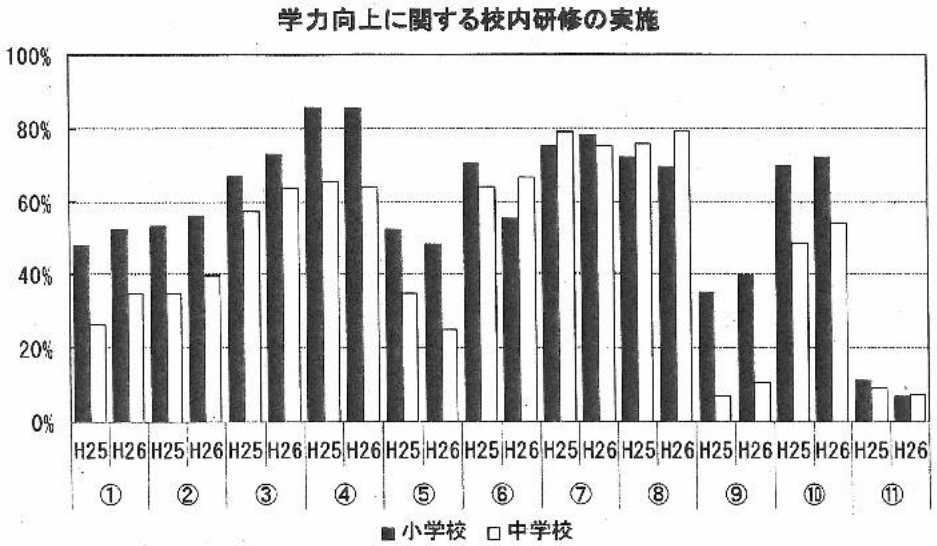
地区	強化市町村	地区	強化市町村
北九州	直方市、水巻町	筑豊	田川市、嘉麻市、赤村、香春町、川崎町、糸田町、桂川町、添田町、福智町、大任町
北筑後	うきは市、大刀洗町		
南筑後	大牟田市		
京築	みやこ町、築上町、吉富町外一市中学校組合		

2（1） 市町村及び学校における教員研修

市町村及び学校における教員研修

■　学力向上に関する教員研修の現状

学力向上に関する校内研修の実施状況については、中学校に比べ小学校の実施率が高い傾向にあります。「学習評価」「言語活動」「小中連携」については、小中の実施率に大きな違いが見られませんが、「授業改善のStrategy及び学力調査問題活用」「教材集・診断テスト」については、小学校が70～85%なのに対し、中学校の実施はそれより20%程度低くなっています。



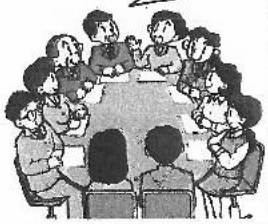
①習熟度別指導　②繰り返し学習　③家庭学習
④授業改善のStrategy及び学力調査問題活用
⑤学習指導要領の内容　⑥学習評価　⑦言語活動
⑧小中連携　⑨保幼小連携　⑩教材集・診断テスト⑪その他

（平成２７年度学力向上推進に関する調査）

■　「基礎基本を含む活用力を育成する教材集の手引」の活用

福岡県教育委員会では、教材集や診断テストを効果的に活用するために、平成２８年４月に「基礎基本を含む活用力を育成する教材集活用の手引」を発行しました。児童生徒の学力向上のために、学校全体で児童生徒の傾向を把握して、実態に応じた研修を通して、日々の授業改善に努めましょう。

自校の児童生徒に必要な部分のみを使って、効果的に活用するために、校内研修を行います。



この他、義務教育課ホームページの「各種資料」「学力アップパッケージ」には、「校内研修モデル」例も掲載しています。
御利用ください。

校内研修で　趣旨や特性を共通理解する

次のような手順で、教材集についての共通理解を図りましょう。

1st　問題を解いてみる

ポイント

○　小学校は高学年担任、中学校は国語、数学の担当教員が、児童生徒の課題が大きい問題を事前に選んでおく。

○　解くときは、自分の学級の児童生徒の解答傾向を想定するとよい。

2nd　気付いたことを出し合う

ポイント

○　付箋紙を配布し、それぞれが気付いたこと（教科書の問題との違いや他教科との共通点等）を１枚に１つずつ記入する。

○　３～４人の小グループをつくり、必要に応じて説明を加えながら、できるだけ多くの気付きを出し合う。

3rd　出し合ったことを整理して共有する

ポイント

○　出し合った気付きを、共通する観点等で分類し、簡単なタイトルをつける。

○　分類したものを構造化したり、自校の課題に基づいて意見交換したりしながら、教材集の趣旨や特性、活用の仕方について話し合う。

（基礎基本を含む活用力を育成する教材集活用の手引（小学校編））

※　この手引は、「義務教育課各種資料のページ」からダウンロードすることができます。

学力向上への意識を高める教員研修

築上町教育委員会

■ 取組のねらい

○ 児童生徒に確かな学力を身につけさせるために必要な要素の一つである「教員の指導力量」の向上をめざして築上町として教員研修の充実を図る。

■ 取組の組織

築上町学力向上検証委員会
・町内の学力実態の分析、取組の検証

教育長・教育委員会担当者
町内小・中学校長（計１０校）
京築教育事務所指導主事等

築上町企画委員会
・町学力向上の取組の企画・運営

教育委員会担当者
推進中学校（校長１、教頭１）
小学校長代表
教務担当者代表

築上町内小・中学校
学力向上校内推進委員会
・自校の学力実態の分析
・町の学力向上プランをもとに取組を企画、推進

■ 取組の年間計画

月	研　修　内　容
4月	町内全小中学校に学力向上等に関する学校・家庭用リーフレットを配布 **デジタル教科書研修会**　※参加対象…町内全小学校教員
5月	町教育委員会による学校訪問　※町内全小中学校
6月	築上町企画委員会（学力向上全員研修会の企画検討） 築上町学力向上検証委員会（教研式CRT検査結果の分析、報告）
7月	学力強化講座の実施　学校経営校長面談
8月	学力強化講座の実施　築上町企画委員会 **講師招聘による学力向上全員研修会**　※町内全小・中学校教員
9月	築上町学力向上検証委員会 （全国学力・学習状況調査結果・福岡県実態調査結果の分析、報告 hyper-QU 結果の分析、報告）
10月	八津田小学校研究発表会　※町内教員５割参加要請
11月	築城小学校研究発表会　※町内教員５割参加要請
12月	学力向上校長面談 築上町企画委員会（学力向上実践交流会の企画検討）
2月	**学力向上実践交流会**　※町内小中学校長および教務担当者等
3月	築上町学力向上検証委員会（学力向上に関する取組の成果と次年度の方向性の検討）

■　取組の工夫点

1　デジタル教科書研修会において、本年度より町が導入したデジタル教科書（小学校教師用指導書）および ICT 機器の操作方法を教員が身につけ、授業への積極的な活用が図られるようにした。

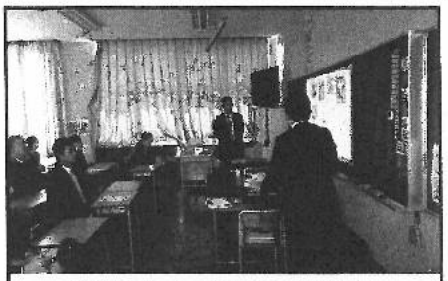
2　講師招聘による全員研修会において学力向上に成果を上げた先進校の取組を町内の全小中学校の教員が聞くことにより学力向上への意識を高めるようにした。

3　学力向上実践交流会において各学校の学力向上についての取組を交流することにより他校の成果を共有し、町内の小中学校全体の教育の質を高めるようにした。

■　取組の実際

1　デジタル教科書研修会

○　本年度、築上町では小学校の国語、社会、算数、理科の４教科の教師用デジタル教科書を全小学校に導入した。導入にあたり入学式の午後（４月９日）、町内全小学校教員を対象に各教科書会社より講師を招聘しての研修会を実施した。その後、各学校の毎月の活用状況について報告を求めている。


デジタル教科書研修会

2　講師招聘による学力向上全員研修会

○　８月、学力向上に成果を上げた熊本市の元中学校長を招いての講演会を実施した。その中で、校長をリーダーとした組織的な学校運営について、授業研究のあり方、教師の子どもへのかかわり等、多方面から示唆をいただき、町内の小中学校の全職員で共有することができた。

学力向上全員研修会

3　学力向上実践交流会

○　学力向上についての課題解決に向け、学力向上に組織的に取り組んだ実践を代表校２名の教務担当者が報告した。その後、それをもとに各学校の実践を踏まえた意見交流を実施し、成果の共有が図られた。

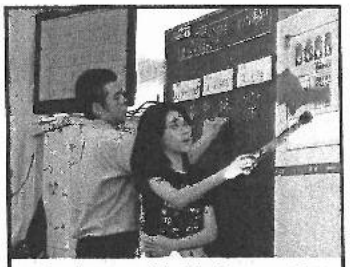
○　京築教育事務所の指導主事を招聘し、各学校および町としての取組についての具体的な改善策や今後の方向性等の指導助言を受けた。

■　取組の成果と課題

【成果】

○　各学校において、デジタル教科書を含む ICT 機器を積極的に活用し、児童が意欲的に取り組む授業が展開されるようになってきており、授業改善の推進が図られつつある。

　各学校のデジタル教科書の１日当たりの活用回数の平均が伸びてきた。
（５月：11.2回→１１月：11.7回）


デジタル教科書の活用

タブレットの活用

○　学力向上に関する町主催の研修会等の実施により教員の学力向上に対する意識が高まってきており、各学校において小中連携しての取組や家庭学習、補充学習等の組織的な取組が推進されてきている。

【課題】

●　アクティブラーニングや ICT 機器を効果的に活用した授業等、授業改善に向け町としてめざす授業のモデルを提示するなどした研修会や特に単学級の学年が多い本町の小学校においては学年単位での研修会の実施等、今後、学力向上研修会の内容を見直す必要がある。

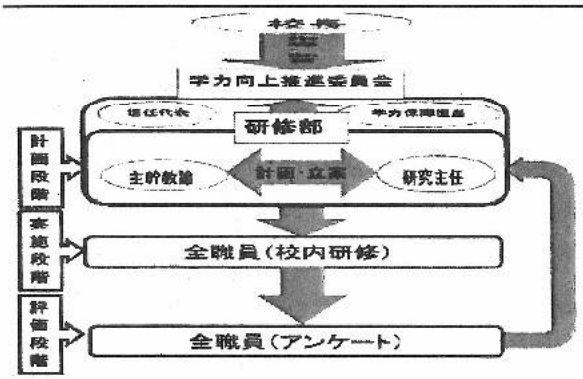
学力向上のための校内研修

添田町教育委員会（真木小学校）

■　取組のねらい

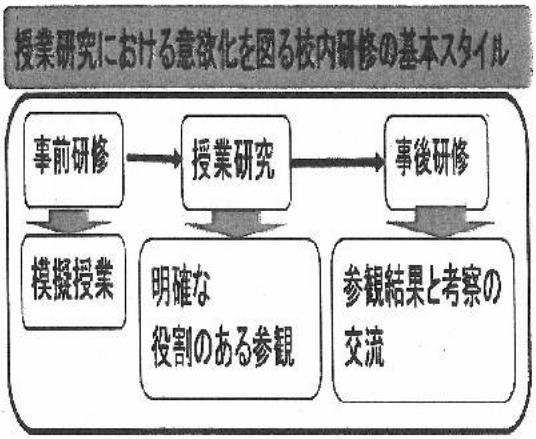
○　研究授業（研究教科　算数科）を通して授業改善をめざすと共に、教室環境等の学力向上につながる取組の共通理解を図る。

■　取組の組織



【研修部】
　校長の指導助言を受け、を中心に校内研修の計画・立案し実施する。
【学力向上推進委員会】
　校内研修後のアンケートを実施し、成果と課題をまとめ改善を行う。

■　取組の年間計画



1学期	**【実態把握（ワークショップ型研修）】** 学力実態調査（全国学力・学習状況調査・NRT）や授業の様子から成果と課題を明らかにする
	【提案授業】 基本スタイル（左図）の確認
2・3学期	**【校内研修の実施】** （事前）→（実践）→（事後） 模擬授業　授業研究　結果と考察の交流
	【まとめの授業】 これまでの校内研修の結果と考察の交流を受けてのまとめ
年度末	**【実践の検証】** 学力実態調査（CRT）の実施による成果と課題の明確化

※　提案授業、まとめの授業では指導主事を招聘し、理論に基づいた研修を行う。

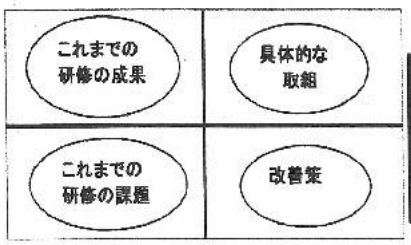
■　取組の工夫点

○　授業研究の共通理解を図るためのワークショップ型の研修と模擬授業の実施（事前研修）
○　一人一人の役割を設定した授業参観とその結果と考察の交流
○　教室訪問による教室環境づくりの共通理解

■　取組の実際

1　課題を明らかにし、目指す子どもの姿の共通理解を図るためのワークショップ型の研修

研修では、低学年・高学年の２グループに分かれ、図１の観点で付箋に書いた意見を模造紙に整理した。その後、各グループの意見を交流し、子どものめざす姿の共通理解を図った。



【図１：観点別取組の整理】

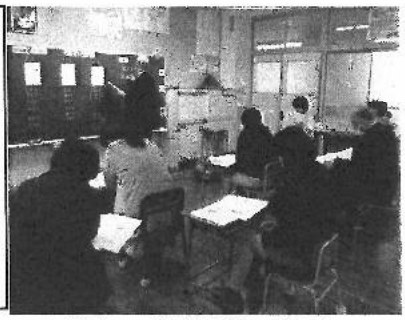
目指す子どもの姿

低学年・・・言葉・数・式・図・表・グラフなどを用いて、自分の考えを説明することができる。
高学年・・・表現したものを基に考えを深めたりひろげたりすることができる。

2　事前研修（模擬授業）

本時の授業「単元名：九九のきまり」を参観者が子どもの立場で参加し、授業作りを行った。実際の模擬授業では、以下の参観者の意見を基に本時授業の共通理解を図った。

① かけ算九九カードを利用した九九表を提示する。
② 同じ答えになるかけ算カードを取り出し、黒板に整理する。
③ 授業にゲーム的な要素を持たせる。



【図２：模擬授業の様子】

■　取組の成果と課題

【成果】

1　ワークショップ型研修についてのアンケートから

・今回のような研修を行うと、自分の中で成果や課題が整理できていないことに気づき、実際にやってみて良かったと思った。
・他の先生方と課題などを交流できたので，全校の課題がみえてきた。
・お互いに課題を出し合うことができたのでよかった。みんなで意見を出し合うことで自分のものになった。

2　事前研修（模擬授業）についてのアンケートから

・一つの授業の中でたくさんの事を試行錯誤でき、とても勉強になった。
・授業をする方も観る方もわかりやすかった。
・自身の授業をする際の流れや発問、板書などを整理することができた。
・授業の流れの説明（なぜここで、この発問をするのか、意図など）があり、すごく勉強になった。

3　ワークショップ型研修・事前研修（模擬授業）のアンケート結果から

○　ワークショップ型の研修は、課題や取組の共通理解が図られ、一人一人の教師の問題意識を高めるために有効であった。
○　事前研修において，模擬授業を行ったことにより、授業のイメージを持つことができたことや授業者のねらいや意図について理解を深めることができた。
○　授業研究に対する共通理解が深まった状態での参観は、参加意欲の高まりにもつながった。

4　その他

○　他の教室を訪問する機会が増えたことにより、参考になる教室掲示や既習の学習のまとめ方など共通理解をすることができた。

【課題】

●　すべての授業研究において、事前事後の研修会を行う時間の確保が必要であることから、年間計画を早い段階で提示する必要がある。
●　課題、取組内容、改善方法などを共通理解し、学力向上に関わる目標ポイントの達成に向けて全職員で取組の徹底を図っていく必要がある。

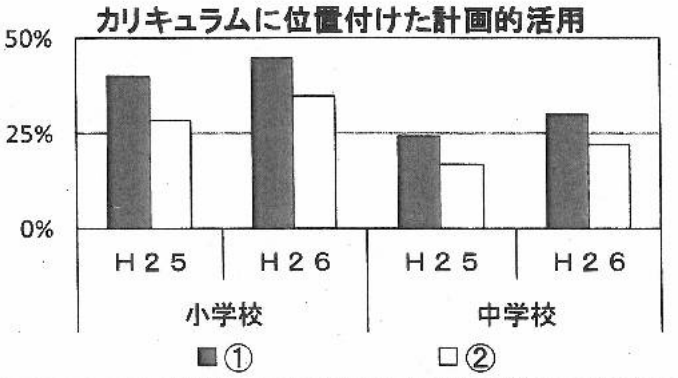
2 (2) 学校における学力向上の取組

検証改善サイクルの確立

■　学力向上推進の現状

福岡県では、すべての公立小中学校（政令市を除く。）に学力向上推進組織が設置されており、小学校で約 97%、中学校で約 94%が運営計画を作成した上で学力向上推進組織による学力向上を図る取組が実践されています。

しかし、基礎基本を含む活用力を育成する教材集の計画的な活用は小学校で約 45%、中学校で約 30%であり、全国学力・学習状況調査や福岡県学力実態調査の過去の問題の活用は小学校で約 35%、中学校で約 22%となっています。



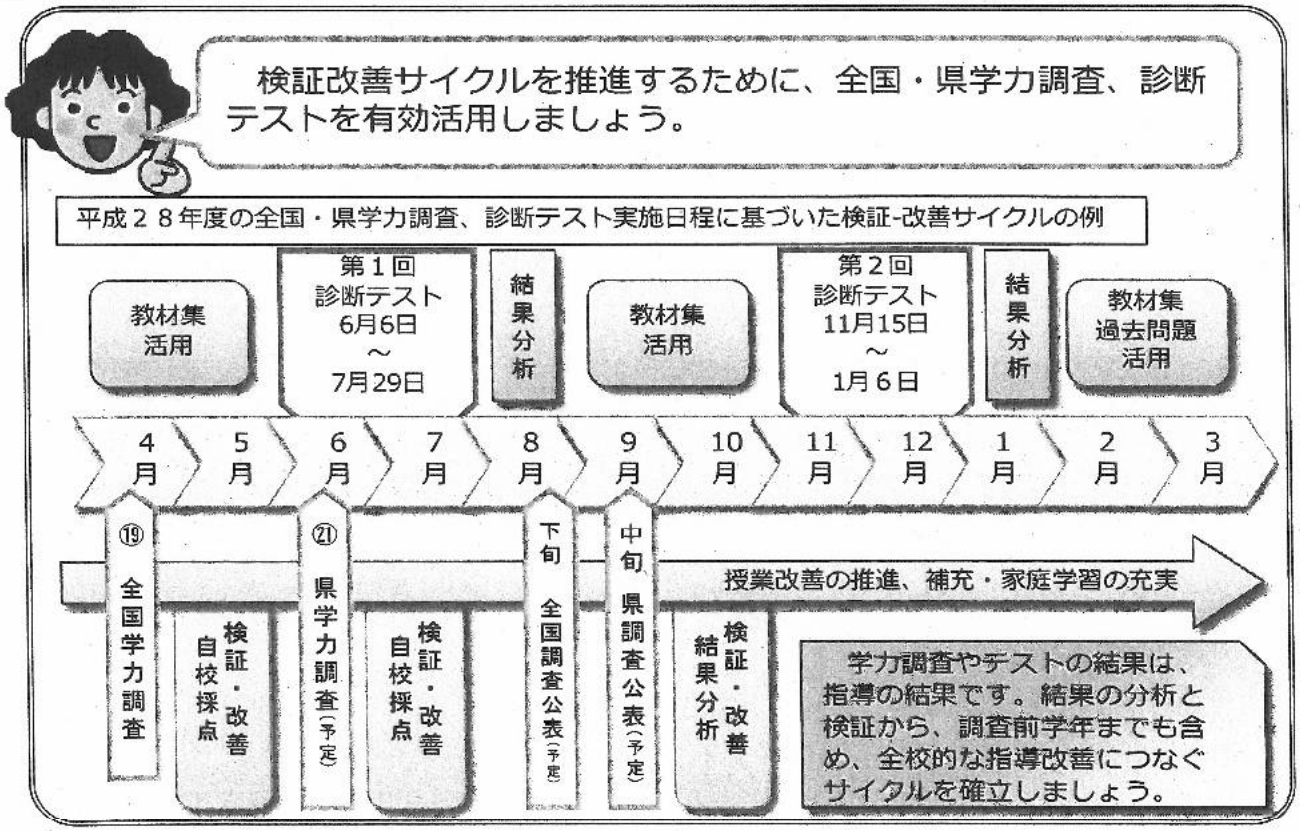
①「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」の授業中や朝の時間等での活用
②全国学力・学習状況調査や福岡県学力実態調査の過去の問題を使用した取組

（平成２７年度学力向上推進に関する調

■　結果の分析と検証から指導改善するサイクルの確立

福岡県教育委員会では、平成２８年度から、基礎基本を含む活用力を育成する教材集の配布及び診断テストの実施をこれまでの学年に加えて、小学校第４学年においても実施します。これは、平成２７年度から実施している福岡県学力調査の結果から、小学校４年生までの学習内容の定着にも課題があり、つまずきの初期段階から短いスパンで検証・改善することで、個に応じた手立てを講じ、きめ細かに対応することがねらいです。

結果の分析と検証から指導改善を行うサイクルの確立によって、１人でも多くの児童生徒に「わかる」「できる」成就感を味わわせ、学力を向上させましょう。



（基礎基本を含む活用力を育成する教材集活用の手引より）

学力向上プランや全国学力・学習状況調査等を活用した検証・改善サイクル

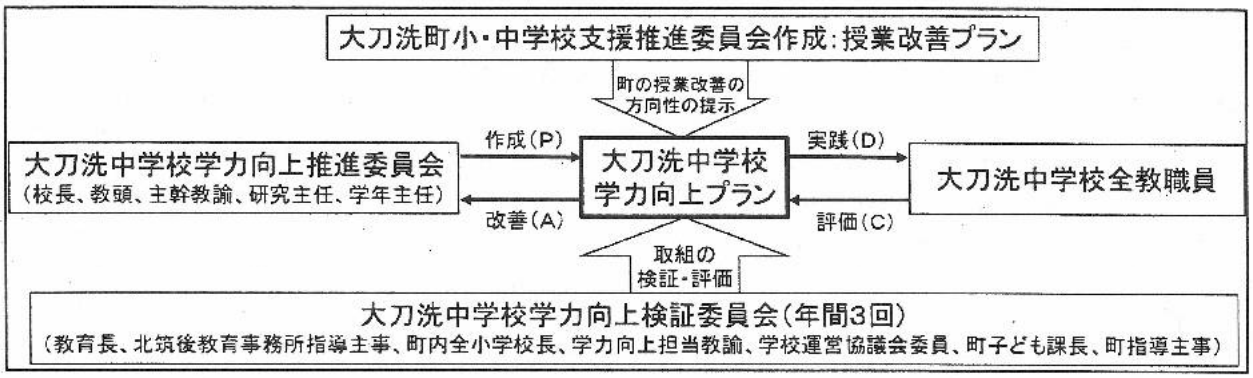
大刀洗町教育委員会（大刀洗中学校）

■　取組のねらい

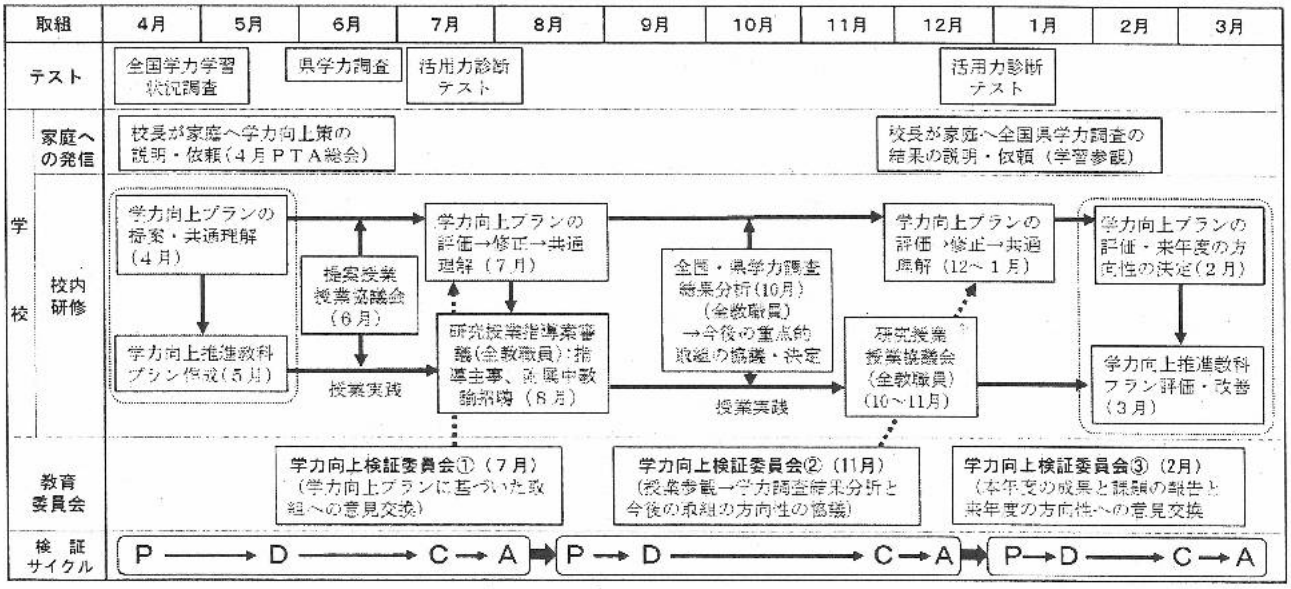
○　校内学力向上推進委員会を中核として、自校の学力向上プランに基づき、全職員の参画のもと組織的・計画的に学力向上の取組を実施する。

○　町内小中学校長、各学校学力向上担当教諭、指導主事、学校運営協議会委員で構成する「学力向上検証委員会」を組織し、中学校の学力状況の把握や学力向上策の検討、評価、改善を行う。

■　取組の組織



■　取組の年間計画



■　取組の工夫点

1　学力向上プランの活用

・　校内学力向上推進委員会が学力向上プランを学期ごとに見直し、生徒の実態に応じた修正学力向上プランの作成・評価・改善を行う。

・　学力向上プランに基づいた学力向上推進教科プランを全教科作成し、日常の授業や研究授業で実践・評価を行う。

2　全国学力・学習状況調査、県学力調査の活用

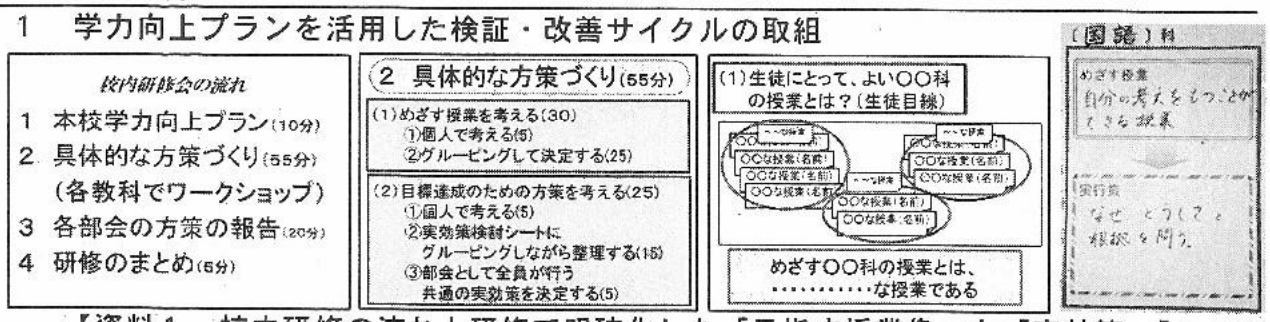
・　全教職員で調査結果を分析し、共通する課題を明確にし、授業改善に取り組む。

3　学力向上検証委員会

・　教育委員会は施策の面から、小学校長・小学校学力向上担当教諭は異校種の面から、学校運営協議会委員は地域・保護者の面から中学校の取組に対して意見を述べる。

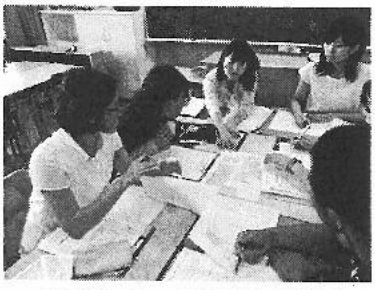
■　取組の実際

1　学力向上プランを活用した検証・改善サイクルの取組



【資料１　校内研修の流れと研修で明確化した「目指す授業像」と「実効策」】

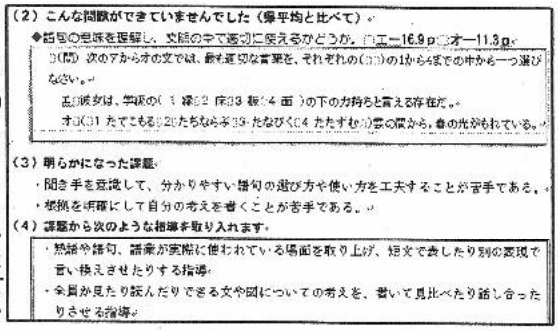
資料１の手順で、校内研修を行い、学力向上プランの共通理解と各教科における目指す授業像を明らかにしていった。その後、全教職員が目指す授業像と実効策に応じた学習指導案の審議、研究授業及び協議会（資料２）を行い、各教科の授業の在り方の検証・改善を行った。なお、研究授業の際は、必ず指導主事もしくは附属中学校教諭から今後の方向性について指導をしてもらった。そして、日常の授業や研究授業を通して出てきた成果や課題をもとに、学力向上プランの修正を各学期末に行い、授業改善を図った。



【資料２　授業協議会】

2　学力調査問題を活用した改善サイクルの取組

10 月の校内研修は、「①自校の全国・県の学力調査結果の提示②結果から見える問題点を全教職員で洗い出し③改善策をグループで協議④重点的に取り組む内容を全教職員で決定⑤各教科部に分かれ具体的な方策の検討」の手順で行った。本年度の調査結果の分析・協議の結果、重点的に取り組む内容を「自分の考えとその根拠を書く活動を全教科で取り組む」ことを共通で確認し、教科ごとに具体的に書かせる内容・方法を決定していった。その後、校内研究推進委員会で全国・県学力調査の結果と家庭学習における協力依頼を記入した保護者通信を作成し、発信していった（資料３）。


(2) こんな問題ができていませんでした（県平均と比べて）
◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるかどうか。□エ―16.9p□オ―11.3p
3(問) 次のアからオの文では、最も適切な言葉を、それぞれの(□□)の1から4までの中から一つ選びなさい。
エ 彼女は、学級の(1 様 2 床 3 板 4 面)の下の力持ちと言える存在だ。
オ (1 たてこもる 2 たちなら 3 たなびく 4 たたずむ) 雲の間から、春の光がもれている。
(3) 明らかになった課題
・聞き手を意識して、分かりやすい語句の選び方や使い方を工夫することが苦手である。
・根拠を明確にして自分の考えを書くことが苦手である。
(4) 課題から次のような指導を取り入れます。
・熟語や語句、語彙が実際に使われている場面を取り上げ、短文で表したり別の表現で言い換えさせたりする指導。
・全員が見たり読んだりできる文や図についての考えを、書いて見比べたり話し合ったりさせる指導。

【資料３　保護者への通信（一部抜粋）】

3　学力向上検証委員会での取組

学力向上検証委員会では、授業参観や学校の取組を通して活発な意見交換が行われた。

- ○　北筑後教育事務所…家庭学習の具体的な方策、思考力を高める授業展開への助言
- ○　小学校長…中学校に入学させるまでに身に付けさせるべき資質・能力への意見
- ○　学力向上担当教諭…小学校が取り組んでいる家庭学習の紹介
- ○　学校運営協議会委員…生徒の地域での様子の紹介、家庭学習の状況や保護者の要望

■　取組の成果と課題

【成果】

○　学力向上プランを中核として、学期ごとに授業改善等の改善・検証を繰り返したことは、教師の授業改善への意識と生徒の学ぶ意欲の高揚につながった。

○　学力向上検証委員会を開催したことは、中学校以外の多様な視点から意見交換ができ、学力向上の新たな改善策を生み出すことができた。

【課題】

●　全国・県学力調査分析から見えた課題に基づき、決定した重点的取組の各教科等や学校全体の実践・評価の在り方

●　学力向上検証委員会の中で、中学校の課題から考えられる教育委員会の施策、小学校段階での学力向上策、家庭・地域でやるべき取組を具体的に検討する時間の確保

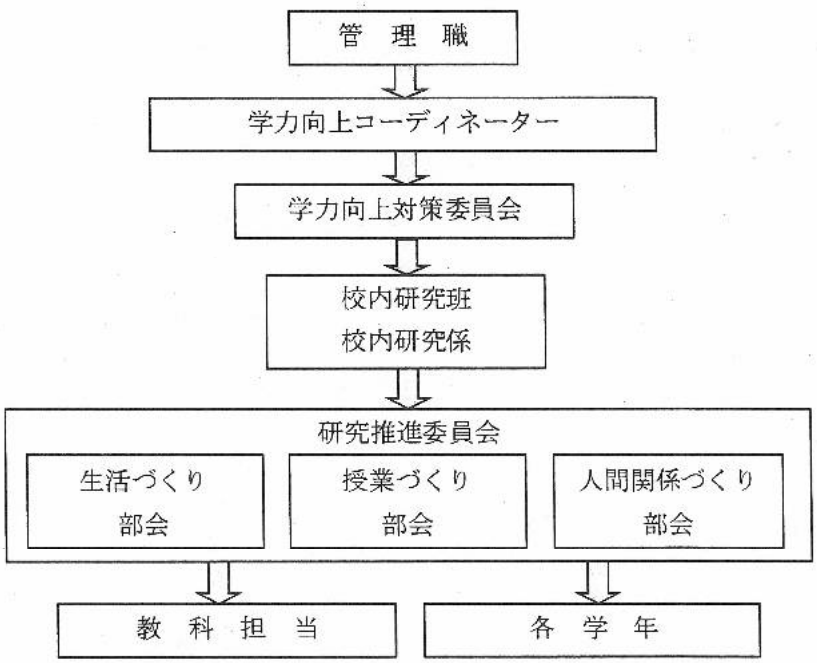
教材集、診断テストを活用した学習指導を行う工夫

糸田町教育委員会（糸田中学校）

■　取組のねらい

○　３年生時に行われる全国学力・学習状況調査に向け、１年生時より基礎基本の定着と活用力を向上させるため、研究推進委員会、学力向上委員会でＰＤＣＡサイクルを検討し、全教科で取りくむとともに、国語、数学の教科担当教員と該当学年が協力し、福岡県が配布している「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」を繰り返し活用し学力の定着を図る。

■　取組の組織



■　取組の年間計画

月	取組の年間計画	
４月	研修、実態の把握　年間計画の提案　全国学力・学習状況調査	調査
６月	第１回福岡県学力診断テスト（１～３年）	診断テスト
９月	第１回福岡県学力診断テスト（１～３年） 結果の検討、学力向上委員会で方策を審議	結果分析
１０月	基礎基本を含む活用力を育成する教材集の担当教科への配布 活用の推進　教材集の活用（各学年、担当教科） ３年生対策プリント学習	教材集活用
１２月	第２回福岡県学力診断テスト（３年） 福岡県学力調査フォローアップシート冬季課題	診断テスト 結果分析
１月	第２回福岡県学力診断テスト（１～２年）	教材集活用
２月	第２回福岡県学力診断テスト結果検討 ３年生の結果より取組方法の再検討 ２年生は全国学力・学習状況調査に向けてのドリル	診断テスト 結果分析 教材集活用
３月	春季休業の課題で教材集活用	

■　取組の工夫

〈全国学力・学習状況調査について〉

調査実施前に授業および宿題等で過去問題および教材集を活用し、問題傾向に慣れさせる。

〈教育課程について〉

国語・数学科では授業中の小テストに教材集を活用する。

〈教材集の活用について〉

授業の小テスト、練習問題、朝自習、宿題に教材集を抜粋して使用する。

〈ＰＤＣＡサイクルについて〉

前ページ「取組の年間計画」にあるように調査・診断テスト→結果分析→教材集の活用→診断テスト→結果分析→教材集の活用→調査・診断テストのサイクルを繰り返す。

■　取組の実際

【生活づくり部会】

規範意識、基本的生活習慣、学習規律の育成。

【授業づくり部会】

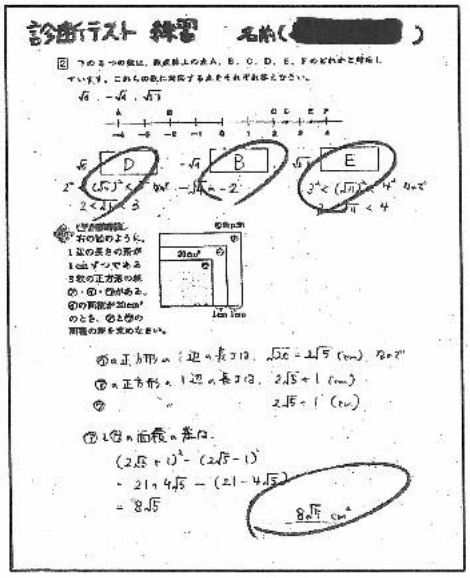
「承認・学び合い」での自己存在感、共感的人間関係の育成。

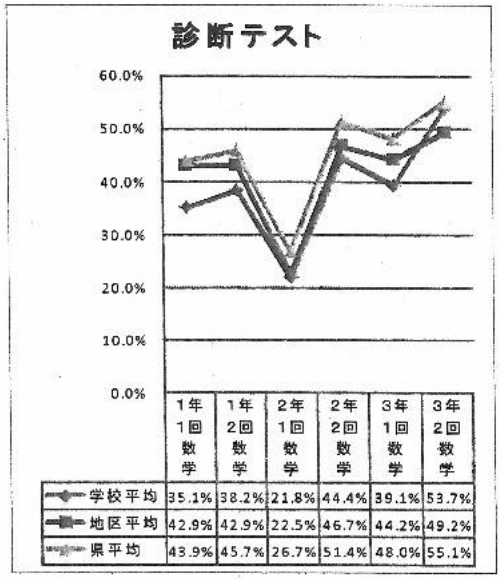
【人間関係づくり部会】

アセスの分析、共感的人間関係の育成。

小中連携の取組により、研究推進委員会の上記３部会は同じ歩調で活動した。その上で、各教員が年２回の授業研究を行い生徒が自ら考え学習する授業を構築した。

各学年では朝自習、補充学習、休業中の課題で教材集の活用を行った。また、教科では、授業での小テストで教材集を抜粋し、診断テスト前には対策プリントづくり学習を行った。





	1年1回数学	1年2回数学	2年1回数学	2年2回数学	3年1回数学	3年2回数学
学校平均	35.1%	38.2%	21.8%	44.4%	39.1%	53.7%
地区平均	42.9%	42.9%	22.5%	46.7%	44.2%	49.2%
県平均	43.9%	45.7%	26.7%	51.4%	48.0%	55.1%

■　取組の成果と課題

【成果】

教材集を活用し、診断テスト等で学力が向上したことにより、生徒も教員も学力向上に対して自信をもてるようになった。このことで、教材集の活用が一層活発になっている。

【課題】

領域別の問題点を洗い出し、得点率の低い領域を担当教科で重点的に指導していく。各教科では、定期的に小テストを実施し、その結果が低位な生徒は教材集を活用し補充学習を行い学力の定着の徹底を図っていく。来年度はより効果的な学力向上を目指すため、短いスパンでのＰＤＣＡサイクルのシステム構築が必要と考えられる。

非常勤講師の効果的な活用

■　非常勤講師を活用した指導の現状

本県の小中学校の約 95％で習熟度別指導が行われています。習熟度別指導は、習熟の程度が同程度の児童生徒を対象に学習するため、習熟の程度に応じた指導工夫がなされ、効果的できめ細かな指導を行うことができます。また、ふくおか学力アップ推進事業の強化市町村には、おもに習熟度別指導を中心とした少人数指導を行うことを目的とした非常勤講師を配置しており、国語、算数・数学を原則として活用しています。

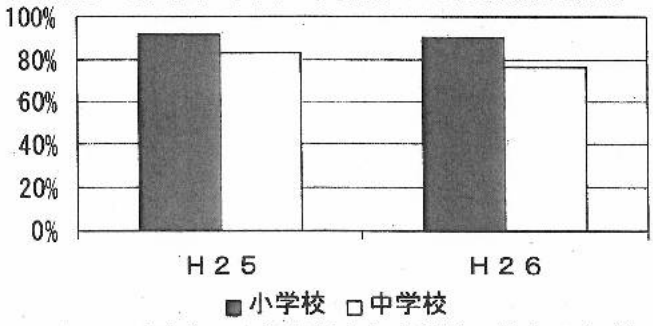
しかし、単元等を重点化した習熟度別指導については、充分に実施できているという状況ではありません。非常勤講師の配置による人的効果を最大限に引き出す工夫が重要です。

習熟度別指導の実施状況

小学校	96.2%
中学校	94.7%

（H２７年度教育課程実施状況調査状況調査）

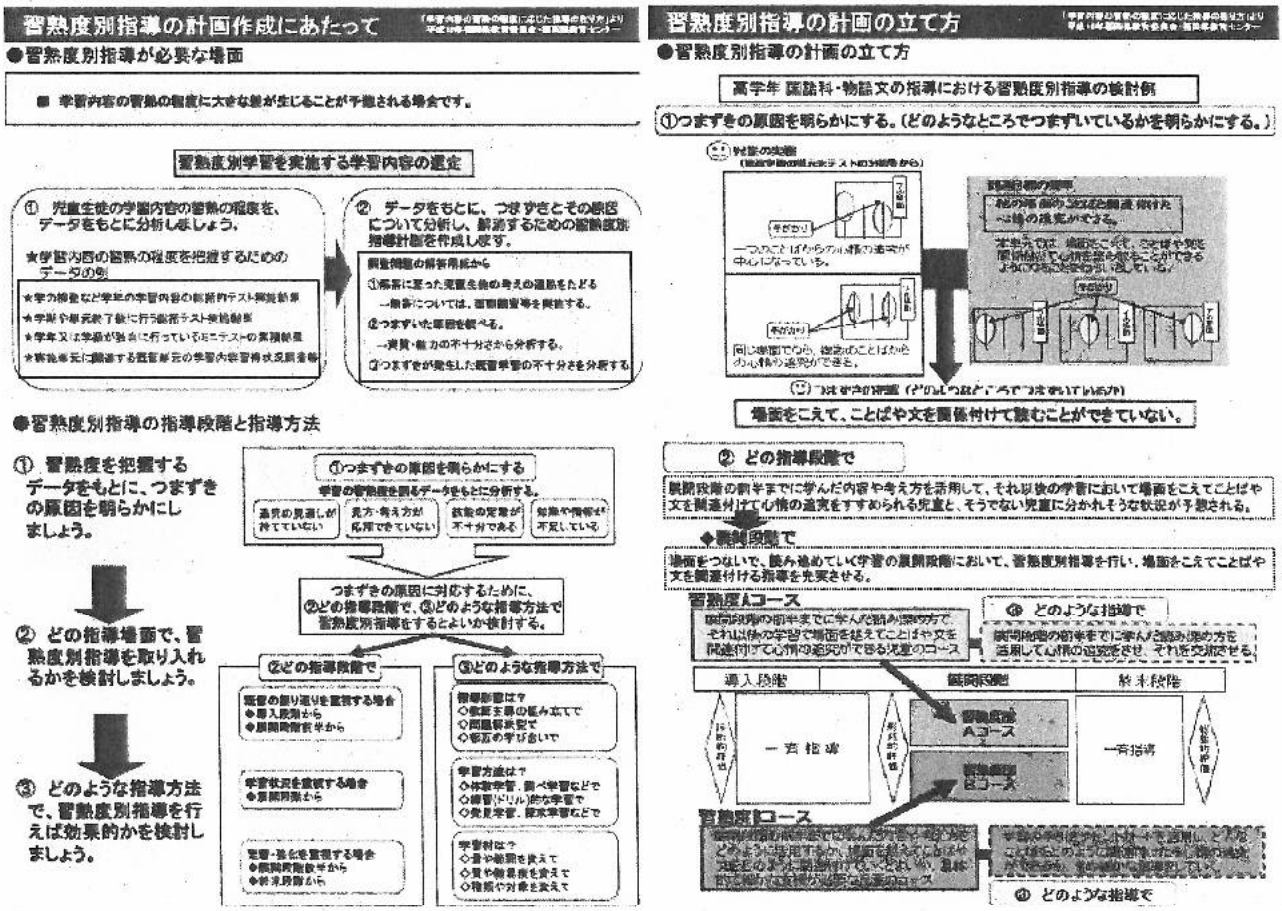
重点的に指導する単元等を定めた習熟度別指導



（平成２７年度学力向上推進に関する調査）

■　非常勤講師を活用した計画的な習熟度別指導

県では、義務教育課ホームページの「各種資料」「学力アップパッケージ」に、「習熟度別指導の手引」を掲載しています。習熟度別指導の充実のために指導内容や方法を工夫しましょう。



（義務教育課ホームページ「各種資料」「学力アップパッケージ」「習熟度別指導の手引」）

国語科における非常勤講師を生かした指導の工夫

香春町教育委員会（勾金小学校）

■　取組のねらい

○　すべての児童に学力を保障するために、国語科において低学力児童に対する少人数指導を行う。

○　ユニバーサルデザインの視点を生かして、児童が主体的に学習活動に参加し、学習内容をよりよく理解できるよう工夫する。

■　取組の組織

香春町学力向上推進委員会推進検証委員会

勾金小学校学力向上委員会

【学力向上部】
・学力向上コーディネーター
・研究主任
・非常勤講師
・管理職
・教務

朝の学習、チャレンジタイム、100マス作文、低学力児童に対する支援体制づくり

【研修部】
・研究主任
・研修部教師
・学力向上コーディネーター
・管理職
・教務

主題研修、一般研修

■　取組の年間計画

４月	学力向上プラン作成、ＮＲＴ学力テスト	11月	
５月	ＮＲＴ学力テストの分析	12月	学力向上の取組の見直し・改善 ＣＲＴ学力テストの分析
６月	具体的な取組内容の策定	１月	３学期の学力支援体制の確認
７月	学力向上の取組の見直し・改善	２月	ＣＲＴ学力テストの分析
９月	２学期の学力支援体制の確認	３月	学力向上の取組の見直し・来年度の方向性
10月			

■　取組の工夫点

○　ＮＲＴテストや全国学力状況調査等の結果分析から、個別指導を必要とする児童（主に国語科・算数科）を明らかにし、非常勤講師や指導方法工夫改善教師を中心として、低学力児童の基礎・基本の定着にあたる。

○　ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを行い、児童が主体的に学習に取り組み、学習内容を理解できるようにする。

○　担任との連携を密にして授業づくりを行うとともに、月に１回学力向上委員会を開催し、取組の見直し・改善を図る。

■　取組の実際

１　国語科において個別指導を行うようになった経緯

国語科の学力（特に言語事項）が低く、一斉授業が難しいこと、集団の中では学習に対する集中が途切れやすいといった理由から、第2学年の児童2名において国語科の取り出し授業を行った。毎日2単位時間行う国語科の授業のうち、1単位時間は、非常勤講師による個別指導を行った。

２　指導する内容

主に「読むこと」「書くこと」の指導を中心に授業を行った。

・言葉の正しい書き方を知る。
・平仮名、片仮名、漢字の読み、書き
言葉の意味やまとまりを考えて、文や文章を正しく読んだり書いたりする。

3　ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり

（１）毎時間、同じ学習の流れで学習し、授業の見通しを持たせる。

ア　読む　（教科書や詩の音読、言葉カード〔平仮名や片仮名、漢字で書かれた言葉〕の速読等）

⇩

イ　話す　（説明文や物語文で読み取った内容を簡潔に話す。自分が体験した出来事等を話す。お互いに質問してそれに答えたり、主語と述語を意識して話す。）

⇩

ウ　書く　（試写、漢字や片仮名の練習、短文づくり、簡単な日記等）

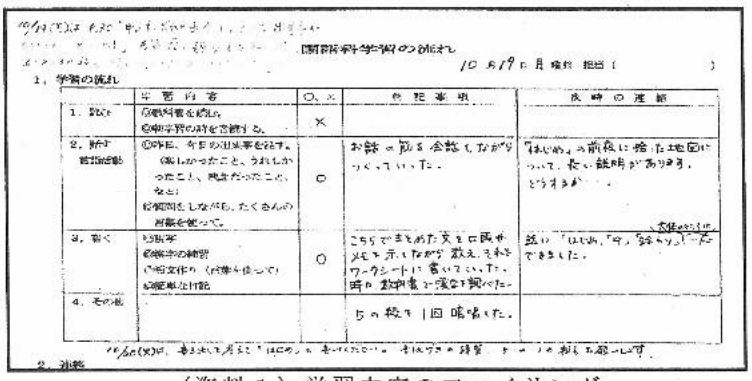
（２）集中して取り組むことのできる学習活動の工夫

・絵図や言葉カード等、視覚的な情報を提示する。

・カード等を用い具体物を用いた捜査活動や作業などを取り入れる。

4　担任との連携

毎時間の学習内容や児童の様子等を記録したカードをファイリングし、担任との連携を図りながら、次時の授業づくりに生かした。



（資料１）学習内容のファイリング

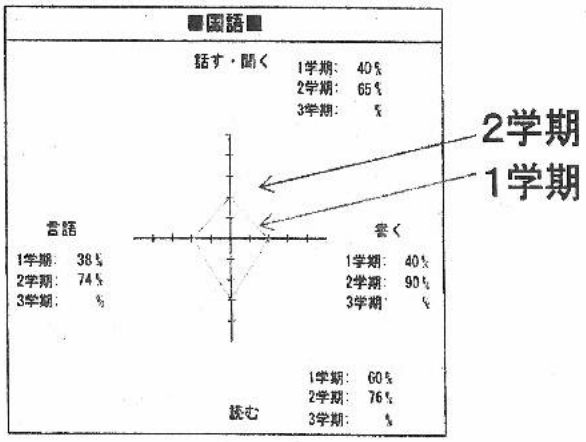
■　取組の成果と課題

○　２学期は、国語科の領域のすべてにおいて伸びが見られた。特に、「書く」「言語」の領域では、２倍の伸びが見られた。

○　実態に応じて、１年生の内容に戻って学習を進めたり、言語事項を中心に学習を進めたりするなど、個に応じた指導を行うことができた。

○　少人数指導による丁寧な指導により、児童が学習に集中して取り組めるようになり、自信にもつながっている。また、その態度が他教科の学習や一斉学習にも広がっている。

○　学習全般において意欲的に取り組めるようになり、教科書の巻末を見て漢字を調べて書いたり、自分の身近なことや興味のあることは積極的に話したりするようになった。



（資料２）Ａ児の市販テストにおける国語科の領域別正答率の比較

○　学力向上委員会で定期的に取組の見直し・改善を図ることにより、児童の個に応じた支援体制を整えることができた。

●　学習の積み重ねを教室に掲示したりするなど、環境整備にも努める必要がある。

●　少人数での学習だと、教師と児童との対話で学習が進みがちとなるので、児童同志の話し合い活動も積極的に取り入れるなど、友達との学びを共有できる活動の工夫も必要である。

算数科における非常勤講師を生かした習熟度別指導等の工夫

桂川町教育委員会（桂川小学校）

■ 取組のねらい

○ 本校学力向上プランに掲げた数値目標【ＣＲＴ検査や全国学力学習状況調査において、全国平均との差を１ポイント以上アップする】の達成をめざし、児童の算数科の学力や学習内容の習熟度に応じて学習指導過程や手立てを工夫した習熟度別分割授業を実施することで、児童の算数科における基礎的な知識・技能の定着と活用力の向上を図る。

■ 取組の組織

○ 指導方法工夫改善教員は、研究推進委員会および学力向上推進委員会に所属し、学力向上プランの作成、学力の基礎を培う朝学習の計画、各種学力調査の結果分析や今後の取組の重点内容等、推進委員会や職員全体への提起を行い、共通理解を図るようにする。

○ 指導方法工夫改善教員が、具体的な実施計画を立て、学級担任、非常勤講師（週 12 時間課題対応教員）とで指導者チームを組み、算数科における習熟度別分割授業を実施する。

■ 取組の年間計画

○ まず、算数科について各学年の一年間を見通した重要単元を選定する。次に、同時期に複数学年での習熟度別分割授業実施のために【資料１】のようなグループ編成例を基に、単元ごとに、指導者、指導時数、実施日時等を調整し、具体的な授業の実施計画を立てる。

【資料1】 習熟度別分割授業のグループ編成および指導者割の例

㋑ 指導者５名
学年５分割（３学級）の例
- A ：指導方法工夫改善教員１
- B ：学級担任
- C ：非常勤講師１
- D１：学級担任
- D２：学級担任

㋺ 指導者６名
学年６分割（３学級）の例
- A ：指導方法工夫改善教員１
- B ：学級担任
- C１：非常勤講師１
- C２：指導方法工夫改善教員２
- D１：学級担任
- D２：学級担任

㋩ 指導者７名
学年７分割（３学級）の例
- A ：指導方法工夫改善教員１
- B１：学級担任
- B２：非常勤講師１
- C１：非常勤講師２
- C２：指導方法工夫改善教員２
- D１：学級担任
- D２：学級担任

㋥ 指導者４名
学年４分割（２学級）の例
- A ：指導方法工夫改善教員１
- B ：学級担任
- C ：非常勤講師１
- D ：学級担任

（事例）４学級の学年で，２学級ずつ組んで実施する場合。

㋭ 指導者５名
学年４分割の例
- A ：学級担任
- B ：指導方法工夫改善教員２
- C ：学級担任
- D ：学級担任，非常勤講師２

㋬ 指導者３名
学級３分割（１学級）の例
- A ：指導方法工夫改善教員２
- B ：非常勤講師２
- C ：学級担任

（A：学力上位群　B：学力注意群　C：学力低位群　D：要個別支援群）

■ 取組の工夫点

○ 非常勤講師の勤務時間が週 12 時間であるため、一学期 150 時間、二学期 150 時間、三学期 120 時間を基準に、過不足ができる限り出ないように学年や単元を工夫し【資料２】のような計画を行う。

○ 本年度は、１学期に５年生４学級を学級ごとに分割して授業を実施していたが、２学期以降は２学級ずつ回の授業形態を取り入れるようにしたところ、他の学年でも重要単元を中心に習熟度別分割授業が可能になり、支援の範囲を広げることができた。

○ A～Dのグループ編成の際、児童の希望や自己選択も生かすことで学習意欲を高めるようにする。

【資料2】 分割授業の週指導計画事例

11 月		学年・単元名			指導方法1（課題対応1（5, 6年）				指導方法2（課題対応2（1, 4, 6年）			
日・曜	主な行事	低学年	中学年	高学年	1校時	2校時	3校時	4校時	1校時	2校時	3校時	4校時
1(月)	文化祭 振替休日											
2(火)	学力テスト・教育相談 定例ALT勤務所 ALT 3日	1C1 TT2担任	4年習熟 1C2,2C1,2C2	6年北海道 反比例① 速さ②③ 5年平均：習熟・テスト 面積比量①②	5年	5年	6年		1C1 個別	4年学年 5C学	6年	
3(火)	文化祭 8 (補日)											
4(水)	一斉読書				4年学年 5C学	6年	学力・生活状況		4年学年 5C学	6年		1C1 個別
5(木)	・5・6C3年習熟時間(面積)3： ・速さ5・1.5					3C1,2 授業参観	5年	5年 5C1,2	4年学年 5C学	6年	1C1 個別	
6(金)	参観授業(1校) 対象2C1・2年C・2年C・2 4C1,2P2				5年	5年	6年		1C1 3年日	4年学年 5C学	6年	

■ 取組の実際　（非常勤講師の活用事例）

○　【資料３】に示すように、第５学年単元「割合」では、２学級 53 名を４つのチームに分割し、指導者と場所割を組み、非常勤講師１がＣチームの学習指導を行うように計画した。第４学年単元「分数」では、学年 82 名を６つのチームに分割し、Ｂチームを指導方法工夫改善教員１がＴ１、非常勤講師１がＴ２として、Ｃ２チームを非常勤講師２がＴ１として指導を行うように計画し、児童の実態に応じた学習指導を実現させることができた。

○　非常勤講師を始め、指導者がスムーズに充実した学習指導を実施できるように、指導方法工夫改善教員は、授業に必要な教具や掲示資料、補充問題プリント等の準備を行う。また、持ち時間が限られている非常勤講師が効率よく仕事ができるように【資料２】のように午前中４校時内で授業を組むとともに、教材研究や打ち合わせの時間を必要に応じて確保しながら週指導計画を立てる。

○　授業の前後に児童アンケートを実施しているが、Ａ～Ｄのグループの学習の進め方を理解し、概ね自分の学力や習熟度に適したグループでの学習を希望することができている。授業後の感想では、「自分と同じペースの友だちと一緒なので、安心して学習できる。（中位群）」「教科書の他に発展や補充の問題をたくさん解くことができて楽しい。（上位群）」「他の学級の友だちの意見を聞くことができるのがいい。」「少ない人数なので、たくさん発表することができた。」「先生が、とても分かりやすく説明してくれたのでよく分かった。（下位群）」「この次も、このグループで学習したい。」等の記述があり、児童が学習形態に満足し、学習の成就感を味わい、学習意欲を高めている姿が実感できている。さらに、「～な問題を解いてみたい。」「～を考える時間がもっとほしい。」等の記述からは、今後の授業づくりの課題を探り授業改善を行うことにも繋がっている。

【資料3】分割授業計画の事例

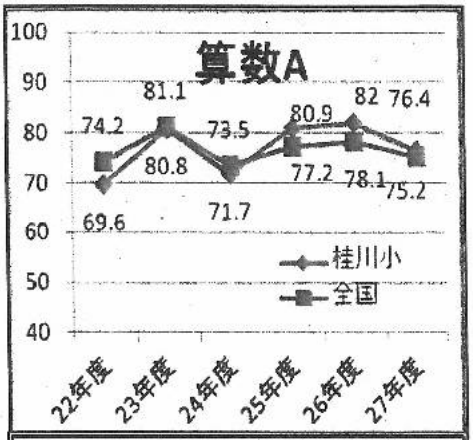
学年４分割（２学級）の実践例
第５学年単元「割合」全 15 時間

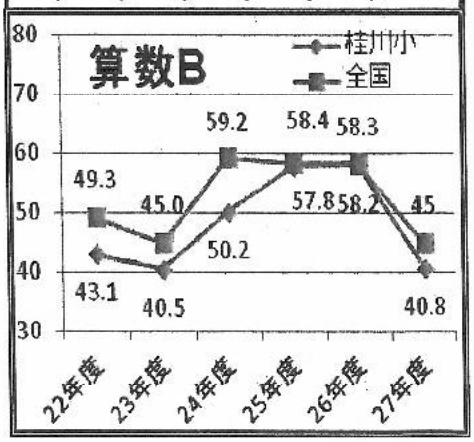
チーム	児童数(名)	指導者	場所
A	２４	指導方法工夫改善教員１	児童会室
B	１７	学級担任	5-1 教室
C	８	非常勤講師１	音楽TTルーム
D	４	学級担任	5-3 教室

学年６分割（３学級）の実践例
第４学年単元「分数」全９時間

チーム	児童数(名)	指導者	場所
A	２３	指導方法工夫改善教員２	中学年TTルーム
B	２１	指導方法工夫改善教員１ 非常勤講師１	児童会室
C1	１２	学級担任	4-1 教室
C2	１１	非常勤講師２	高学年TTルーム
D1	７	学級担任	4-2 教室
D2	８	学級担任	4-3 教室

【資料4】近年の全国学力・学習状況調査の結果（全国平均値と本校平均値）





■ 取組の成果と課題

【成果】

○　全国学力・学習状況調査開始当初の本校の平均値は、全国平均値を大きく下回っていた。しかし、算数科において習熟度別分割授業に取り組み始めて以降、徐々に全国平均値に近づき、【資料４】のグラフのように近年では、年度によっては全国平均値を上回る結果もみられるまでに学力の向上が確実になってきている。このことは、一斉授業では、不足していた学力下位群への手厚い支援、今まで足踏みさせてしまっていた学力上位群への発展・応用問題の導入等が、習熟度別分割授業によって可能になったことの大きな成果であると考えられる。

【課題】

●　非常勤講師の勤務時間を十分に生かし、より効率的で無理のない授業計画の立案、非常勤であっても児童との人間関係が保てる配慮を行うこと等が今後の課題である。

数学科における非常勤講師を生かした習熟度別指導等の工夫

吉富町外一市中学校組合教育委員会（吉富中学校）

■　取組のねらい

○　非常勤講師に対して、生徒の学力実態を把握させ、指導方法や板書等の指導助言を行うことによって、質の高い習熟度別指導を行うことができるようにする。

○　全国学力・学習状況調査問題等の指導を非常勤講師を活用した習熟度別指導を行うことによって学習指導の質と効果を高め、自校の課題を改善できるようにする。

■　取組の組織

吉富町（中学校組合）学力向上検証委員会	【学力向上・指導方法工夫改善推進委員会】 校長、教頭、主幹教諭（教務）、研究主任、指導方法担当（数学科、理科）、生徒支援加配	各教科・領域 重点教科 国、数、理

■　取組の年間計画

実施時期	単　元	取　組　の　年　間　計　画（各学期）
4月	式の計算	○　非常勤講師を２年生４学級に配置し、各学級週２時間の学習指導 ○　朝の打合せ時や略案等による生徒の学力実態や指導方法の指導・助言 ○　通常授業時の一斉指導の補足、個別指導 ○　単元や小節の復習場面、『基礎基本を含む活用力を育成する教材集』や『全国学力・学習状況調査』を使った学習場面での習熟度別指導 ○　教科部会での検証（単元テスト、定期考査、県学力調査、生徒アンケート等の分析による評価と改善）結果の共通理解
5月		
6月	連立方程式	
7月	一次関数	
9月		
１０月	図形の調べ方	
１１月		
１２月	図形の性質と証明	
1月		
2月	確率	
3月		

■　取組の工夫点

○　習熟度別学習指導の場面では、学習内容、習熟の程度や人数等を考慮し、下図のように非常勤講師を配置し、よりきめ細かな学習指導が展開できるようにする。

（基　本）	（発　展）
本校教員 非常勤講師	本校教員

（基　本）	（発　展）
本校教員	本校教員 非常勤講師

（基　本）	（発　展）
本校教員	非常勤講師

（基　本）	（発　展）
非常勤講師	本校教員

○　習熟度別でのきめ細かな学習指導を通して、問題を解決しようとする意欲を高めるとともに、自分の考えを筋道を立て説明したり、表現することができるようにし、自校の課題が解消できるようにする。

○　非常勤講師に対して、事前に学習指導の略案を配付したり、朝の打合せ時に指導方法や支援方法を指導・助言したりする。また、掲示物や学習プリントを準備しておくことによって、より効果的な指導ができるようにする。

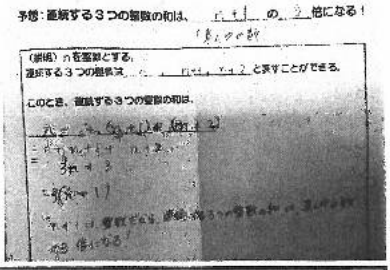
■　取組の実際

（学習内容）全国学力・学習状況調査問題（文字と式）の活用

（学習形態）基本と発展の２コースの習熟度別学習（２時間）

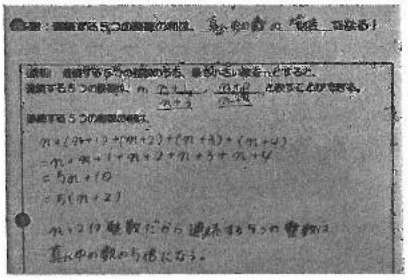
（びっしり）コース【発展】（本校教員）	（がっつり）コース【基本】（非常勤講師）
【全国学力・学習状況調査問題の活用】 連続する３つの整数の和は、中央の整数の３倍になることを説明しよう。	工夫した方法で、１から 100 までの整数の和を求めよう。
 ○　自分で問題を読ませ、自力解決を促す。	 ○　学習課題に対する見通しを持たせ、自力解決を支援する。

○　文字を用いた説明のポイントを確認する。

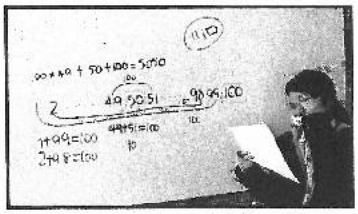


連続する５つの整数の和は、中央の整数の５倍になることを説明しよう。

○　連続する５つの整数の和を予想させ、文字を用いて説明させる。



○　個々の考えをグループで話し合わせ、よりよい方法を見つけさせる。



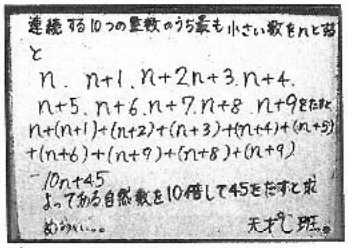
○　グループで話し合った、工夫した方法を交流させる。

【私たちの考えの１つ】
1+99=100,　2+98=100,・・・49+51=100,
だから、100×49＝4900
50と100が余っているので、
4900+50+100＝5050

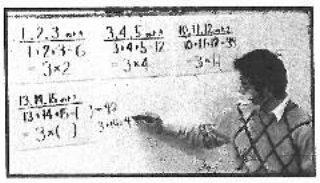
連続する１０の整数の和を、簡単に求める方法を見つけよう。

○　前時までの学習を想起させ、課題解決の見通しを持たせる。

○　グループごとの考えを交流し合い、文字を用いて説明する方法に着目させ、文字を用いることのよさを味わわせる。

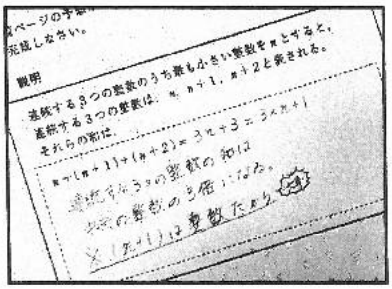


【全国学力・学習状況調査問題の活用】
連続する３つの整数の和は、中央の整数の３倍になることを説明しよう。



○　問題を読みながら、その内容を説明し、問題の意味、課題解決の見通しを持たせる。

○　文字を使った表し方、説明の仕方を確認しながら、具体的な記述の方法を理解させる。



■　取組の成果と課題

《授業後のアンケート結果（４段階評価）抜粋》

①　学習内容を理解することができたか。【4(67％)、3(23％)、2(4％)、1(6%)】
②　習熟度別学習をまたやってみたいか。【4(93％)、3(3％)、2(4％)、1(0％)】

《授業後の生徒の感想から》

・いつもはついていけないけど、ついていけた。まだまだやりたい。
・これからの授業はすべてこのやり方がいい。
・テスト（全国学力・学習状況調査）を早く受けてみたい。

○　非常勤講師に対して指導方法や板書等の指導・助言を行ったことにより、質の高い習熟度別指導を行うことができ、その結果として生徒の学習意欲の高まりが見られた。

○　評価テスト（調査問題と同問）では「白紙」の解答がなくなり、９割程度の生徒が正答した。文字を用いた式でとらえ説明する力が向上してきていると考える。

●　習熟度別学習を行う指導計画や時間割を工夫し、時間的な制約がある非常勤講師を有効に活用できるように、数学科教員の綿密な打合せと教務部との連携をさらに図る必要がある。

●　個々の生徒の学力実態や具体的な指導方法について、非常勤講師に対する的確な指導・助言を継続し、指導技術の向上を図る必要がある。

国語科、算数・数学科以外の非常勤講師の活用で学力向上に生かした指導等の工夫

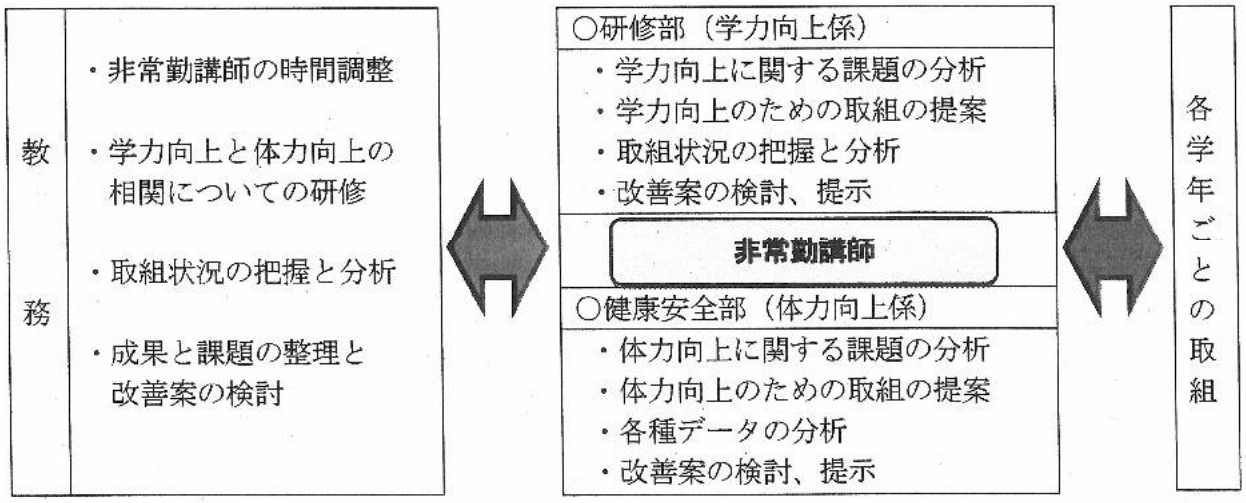
-耐性を育て、学習に向かう姿勢や学習意欲を高めるための非常勤講師の活用-

赤村教育委員会（赤村立赤小学校）

■ 取組のねらい

○　本校は小規模校であり、比較的個に応じたきめ細かな指導が行いやすい状況にあるが、粘り強く学習に取り組む姿勢等に課題があるため、「体力向上」「運動能力のアップ」に粘り強く取り組むことで、児童の耐性を強化し、最後までやり抜こうとする姿勢や学習活動全体に対する学習意欲を高める。

■ 取組の組織



■ 取組の年間計画

月	年間計画
４月	各部・各係での取組の立案
５月	指導体制の調整・調整（各学年・非常勤講師）
６月	一般研修（体幹トレーニング等）、　１学期実践
７月	１学期の成果・課題の分析
８月	
９月	２学期の取組の確認、　指導体制の調整、　２学期実践
１０月	
１１月	
１２月	２学期の取組の成果・課題の分析
１月	３学期の取組の確認、　指導体制の調整、　３学期実践
２月	
３月	年間の成果・課題の分析、　来年度の取組検討

■ 取組の工夫点

○　国語・算数の時間以外の時間を利用し、体育の時間に位置づけられた「体幹トレーニング」等の取組を援用して、集中力等を高める取組の小グループでの指導、全体指導の補助として活用

○　各係の計画と非常勤講師の国語・算数以外の時間の活用について、教務主任を中心に随時調整

○　ＰＤＣＡサイクルの確実な実行と、成果と課題の明確化

■ 取組の実際

1　平成２６年度の新体力テストの結果から見える課題と体力向上の取組の有用性についての研修

（1）児童の体力的課題の共通理解と各学年の体力的発達の特徴についての理解

	体力的課題	体力的発達の特徴
低学年	柔軟性、瞬発力、持久力（筋持久力）	神経系の発達時期
高学年	持久力、瞬発力、調整力	調整力（様々な動きをコントロールする力）

（2）取組のねらいについての共通理解【前記】

（3）具体的取組について

ア　体幹を意識した運動の体育の時間の前半への位置づけと、継続実施

イ　体力アップシートの活用と、休み時間に外に出て日常的に運動する児童の育成

ウ　体育の時間、体育的行事等での児童のがんばりの肯定的評価

2　体幹を意識した運動の体育の時間への位置づけ

○　「体幹トレーニング」を体育の時間の前半５分間に取り入れ、体幹筋を鍛え、スポーツ技能の習得の基礎を培った。また、「ラダートレーニング」も定期的に取り入れ、敏捷性、バランス力、リズム感、調整力等を鍛えた。

その際、正しく体幹トレーニングが行われ、また、一人一人の運動量が確保されるようにするために、小集団での活動を随時取り入れ、その個別の指導に非常勤講師を活用した。

【体幹トレーニングの指導】

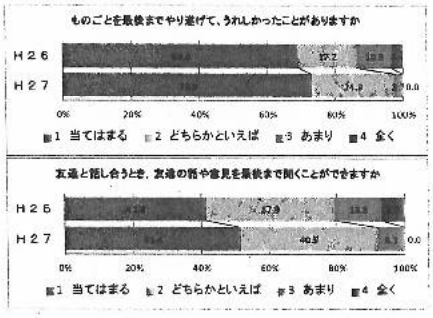
【小集団に分かれての指導】

3　体力アップシートの活用と肯定的評価

○　福岡県が示している「体力アップシート」を活用し、昼休みに１５分間外で遊んだ子にスタンプを押し、担任と非常勤講師が励ましの声かけを行ったり、その数に応じて認定証を渡したりするなど、肯定的評価を行った。

4　体力向上の取組から見られる児童の変容についての分析

○　平成27年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙の回答結果によると、物事を最後までやり遂げてうれしかった経験や友達の話を最後まで聞けた児童が増加している。耐性を育む活動が、最後までやり抜こうとする姿勢によい影響を与えていると考えられ、今後、体力向上係を中心に、取組の方向性について検討し、学習意欲の高まりにつなげていきたい。



■ 取組の成果と課題

【成果】

○　小集団の活動にすることで、個別の指導、運動量の確保ができた。

○　持久走のタイムや日常の運動に積極的に取り組む姿の向上が見られ、様々な活動に対して意欲的に取り組もうとする姿が増えた。

○　算数や国語等、教科の学習で難しい問題に直面するとあきらめがちであった児童が、最後まであきらめずに問題に自ら関わろうとする姿が多く見られるようになった。

【課題】

●　国語・算数以外の時間の活用となるため、週予定の調整、担任との打ち合わせ等の時間の確保

●　体力向上と学習意欲の向上の相関の分析

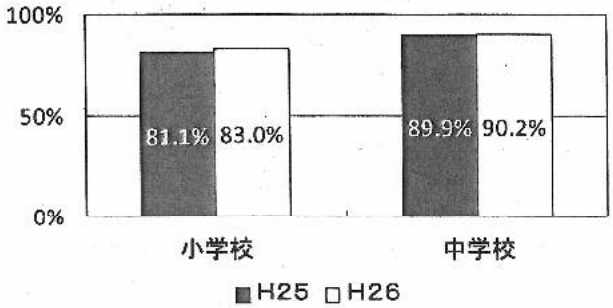
小中で連携した取組

■　小中連携の現状

小中連携は、おもに中学校区で行われており、最初の段階では小中で学習規律・生活規律を合わせたり、中学校区のPTAと連携して、中学校の定期考査等に併せてノーテレビデー、ノー部活デーを実施したりしていることが多いようです。

本県では、80%以上の小学校、90%以上の中学校で小中学校間の授業交流が行われています。

校区内の小中学校間の教員による授業交流の実施



（平成２７年度学力向上推進に関する調査）

小中の接続を円滑にすることによって小学校から中学校への移行をスムーズにして、いわゆる中１ギャップを緩和するなど児童生徒への心理的な効果や、小中の教師間の交流によって互いの校種の特徴を理解してよさを取り入れるなど指導面の効果があがっています。

福岡県の小中一貫校の90%以上が「効果があった」と回答した調査項目

中学校への進学に不安を覚える児童が減少した。
いわゆる「中１ギャップ」が緩和された。
学習規律・生活規律の定着が進んだ。
教員の指導方法の改善意欲が高まった。
小学校教職員の間で基礎学力保障の必要性に対する意識が高まった。
小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった。
小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった。
小・中学校共通で実践する取組が増えた。

（小中一貫教育等についての実態調査（平成２６年文科省））

■　小中連携による学力向上の推進

県では、平成２６年度から平成２８年度にかけて、「確かな学力を育成するための小中学校間の効果的な連携（一貫）システムの在り方を究明する。」ことを目標に、重点課題研究「小中連携・一貫教育による確かな学力の育成」を豊前市立合岩小中学校、東峰村立東峰学園で実施しています。義務教育課ホームページの「各種資料」「重点課題研究」に過去を含め他の重点課題研究も掲載していますので、御利用ください。

（義務教育課ホームページ「各種資料」「重点課題研究」「平成２６～平成２８年度」）

小中連携した学力向上の工夫

直方市教育委員会（下境小学校）

■ 取組のねらい

○ 小中一貫教育の取組を通して、より良い人間関係を築き、自己を豊かに表現できる子どもを育成するために、関わり合い、学び合い・認め合う活動を通した効果的な指導法のあり方を究明する。

■ 取組の組織

直方市小中一貫教育推進本部

直方市小中一貫教育推進委員会

直方第一中学校区小中一貫教育推進委員会
各小中学校校長（下境小、中泉小、福地小、直方第一中）
「拡大推進委員会」（教頭を加えて）

直方第一中学校区小中一貫教育・各部会

部会		構成
学力部会	授業づくり	事務局校の教頭 各校の研究主任
	カリキュラム 学習規律・学習習慣	事務局校の教頭 事務局校の主幹教諭

■ 取組の年間計画

1 年次計画

		２５年度	２６年度	２７年度
学力部会	学習規律の定着	系統表の作成・実践 →	→	→
	家庭学習習慣の定着	手引きの作成・実践 →	→	→
	学力・学習状況の分析	分析と評価表の作成	評価と改善 →	→
	カリキュラムの作成	作成 →	実施・見直し →	→
	授業づくり	授業構想作成・授業研究 乗り入れ授業実施 →	授業研究 →	→

2 年間計画

	１学期	夏休み	２学期	３学期
拡大推進委員会	毎月定期的に実施 →			
学力部会	学力部会① 学力部会②	学力部会③	学力部会④学力部会⑤	学力部会⑥
小中合同研修会	小中合同研修会①	小中合同研修会②		
授業づくり	着眼をもとにした授業づくり		→	
研究授業	研究授業①（全学級）		研究授業②（研究発表会）	
乗り入れ授業	単元計画をもとに随時実施（５・６年生）		→	

■ 取組の工夫点

○ 「授業づくり」では、研究の着眼として、「学びの意欲を高める」「考えをつくる」「考えをふかめる」の３点を挙げ、この着眼のくり返しにより、児童生徒に満足感や成就感を味わわせ、豊かな表現力を身に付けさせていく。また、これらの３つの着眼をくり返しながら「関わり合い」「学び合い」を通して児童生徒同士が「（それぞれの考えを）認め合う」学級集団をつくっていく。

○　「カリキュラム」では、９年間（前期　小１～４年、中期　小５～中１年、後期　中２～３年）の学習指導を連続して行っていくためと、中期における「乗り入れ授業実施」のために、９教科分を３期に分けた「カリキュラム系統表」と「乗り入れ授業単元計画（各教科４単元程度）」を作成する。そして、それらをもとに、計画的に実施をすることで児童生徒の学力向上をめざしていく。

■　取組の実際

○　拡大推進委員会

直方第一中学校区の各小中学校の校長・教頭により組織し、月に１回程度実施した。学力向上に向けて、校区の児童・生徒の実態をもとに、小中一貫教育のあり方や計画について共通理解を図り、方向性を定めていった。【写真１】

【写真１】拡大推進委員会

○　学力部会

拡大推進委員会で話し合われた小中一貫教育の計画に沿って、各小中学校でどのように実施していけばよいのかを協議し、各段階（前期・中期・後期）での具体的な方策（授業づくりや学習規律、家庭学習等）について決定していった。

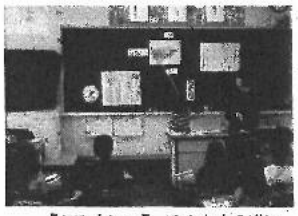
○　小中合同研修会

定期的に開催し、拡大推進委員会・学力部会で決定した内容を小中学校全職員で確認し、計画的・継続的な実施に向けて共通理解を図っていった。【写真２】

【写真２】小中合同研修会

○　研究授業・研究発表会

研究の３つの着眼である「学びの意欲を高める」「考えをつくる」「考えをふかめる」をもとに、研究授業を行い、その有効性について協議し、授業改善を図っていった。また、その授業づくりの取組を日常の授業にも広げていくことで、児童・生徒に確かな学力の定着を図るとともに、研究発表会により、これまでの小中一貫教育の取組の成果を発表していった。【写真３】



【写真３】研究授業

○　乗り入れ授業

小学校から中学校へ学習活動を連続して行っていくために、また、円滑な人間関係を培っていくために、中期（小５～中１年）において中学校教員が小学校で授業を行う「乗り入れ授業」を行っていった。「乗り入れ授業」は、①系統的な指導で児童生徒の理解が深まると思われるもの②中学校教員が小学校の学習に入って専門性が活かせる単元で「乗り入れ授業」の教科別年間指導計画及び乗り入れ単元の単元指導計画を作成し、実践した。【写真４】

【写真４】乗り入れ授業

■　取組の成果と課題

【成果】

○　「考えをつくる」「考えをふかめる」授業を徹底して続けることが確かな学力の定着につながった。（全国学力・学習状況調査の算数Ａ・Ｂの数量関係の領域の正答率が向上した。　右表）

全国平均正答率との差

全国学力・学習状況調査	H26	H27
算数A　数量関係	−15	−5.1
算数B　数量関係	−13.5	−9.5

○　小中一貫教育で継続した授業研究交流ができたため、教材や指導方法の知識・見解を深めることができた。

このことで、教員の授業実践力が増し、児童の学習意欲の向上にもつながった。（全国学力・学習状況調査児童質問紙で算数の勉強が好きな子どもの割合が向上した。　右表）

「算数の勉強がすきですか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合

学校質問紙の回答	H26	H27
当てはまる	22%	45%

【課題】

●　小中一貫教育の取組を通じて、授業改善をさらに進め、課題発見と協同による解決という、児童生徒が主体的に取り組む授業をつくり出すことと、その基本である基礎基本の定着をそれぞれの学校の実態に合わせて確実に取り組んでいくことが必要である。

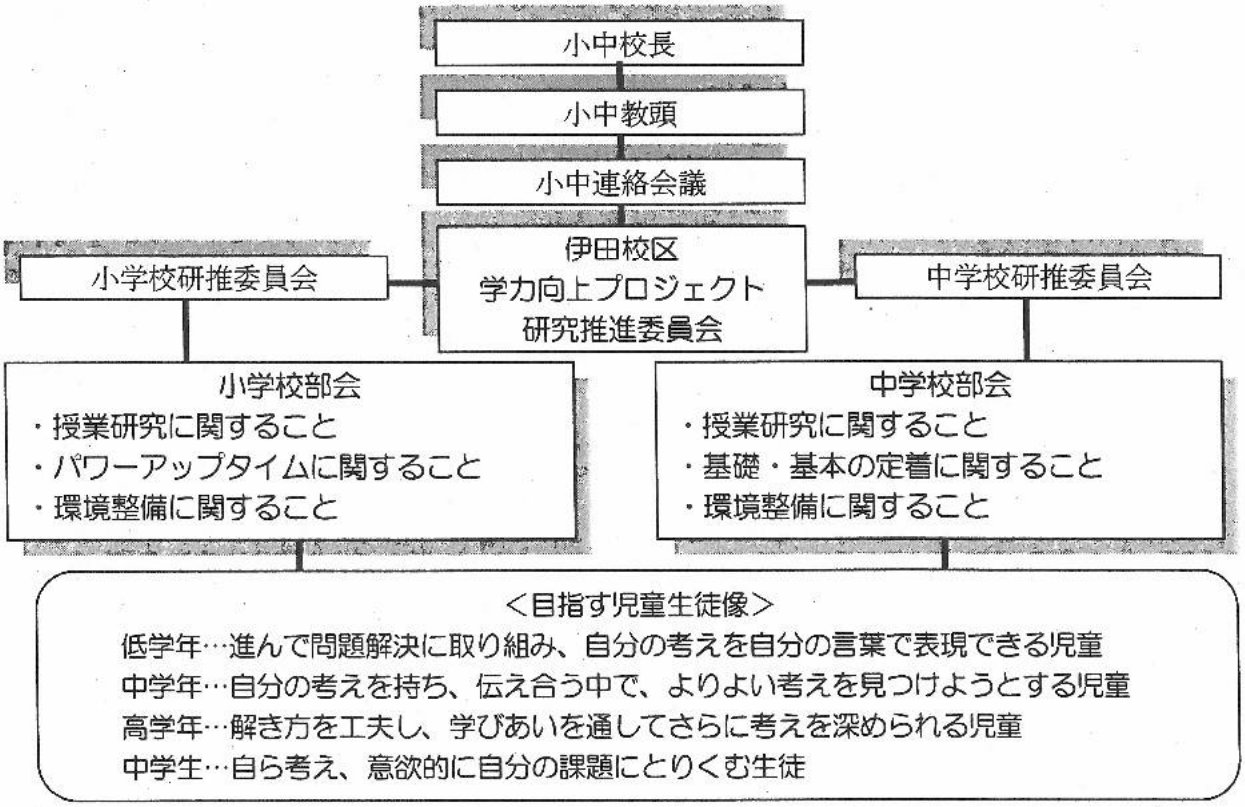
小中連携した学力向上の工夫

田川市教育委員会（伊田小・中学校）

■ 取組のねらい

○ 本校区では、小中相互の具体的な子どもの姿を意識しながら連携している。その中で、確かな学力を育むための小中のそれぞれの役割や、授業改善の具体的な方策を明確にすることができた。しかし、授業改善を中心とした連携は進んできたものの、学力の基盤である生活実態や集団での人間関係づくりについては不十分な面が見られた。そこで、田川市学力向上プロジェクトのテーマ、「自分の考えを持ち、学びあいながら課題の解決に取り組む児童生徒の育成」のもと、実態を踏まえた授業改善と豊かな人間関係調整力の育成を目指す。

■ 取組の組織



■ 取組の年間計画

４月	小中連絡会議　　研究計画の作成	１０月	小中連絡会議　　研究発表会準備
５月	小中連絡会議（指導主事との打合）	１１月	小中連絡会議　　研究発表会
６月	小中連絡会議 小中提案授業（小学校算数提案授業） 小中合同研修会 （SEL8S 提案授業及び講師招聘）	１２月	小中連絡会議 （発表会の成果と課題の整理）
		１月	小中連絡会議 （研究のまとめ作成）
７月	小中連絡会議 小中提案授業（中学校数学提案授業）	２月	小中連絡会議 基礎学力の定着と学力向上の取組
８月	小中連絡会議 研究紀要・発表会指導案作成	３月	小中連絡会議 小中合同研修会 （来年度に向けて計画立案） 基礎学力の定着と学力向上の取組
９月	小中連絡会議 研究紀要・発表会指導案作成		

■　取組の工夫点

○　小中連絡会の定期的開催

・　目指す児童生徒像の設定や校区研究の推進計画を立案する。

・　取組の方向性の確認や提案する内容の検討を行い、小中学校で確実に実施できるように審議を行う。

○　小中合同研修会の実施

・　提案授業、検証授業、入門期・卒業期における授業観察を通して、校区研究で目指す児童生徒の姿や研究の内容について、小中学校職員相互の共通理解を図るとともに、日常の授業改善に生かす。

・　校区の課題に対応した講師招聘研修を行い、職員間の交流を深め認識の共有化を図る。

■　取組の実際

1　小中連絡会

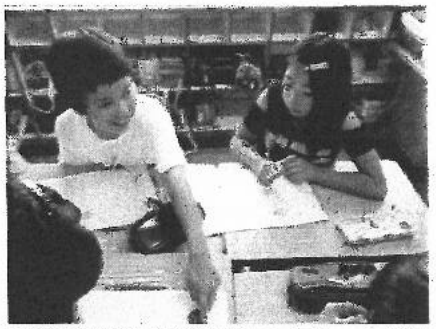
○　毎月１回、小中連絡会を実施し、校区研究の推進を図り、学力向上に向けた具体策を提示した。

・　校区研究テーマ、小中９年間で目指す子どもの姿を設定し、研究の概要及び計画を検討し提示した。

・　各種学力実態調査、学習状況調査の結果を分析し、本校区児童生徒の課題や改善策を明確に示すようにした。

○　『家庭学習の手引き』を作成・配布し、家庭と連携して小中９年間の成長に合わせた学習習慣の定着を図るようにした。

○　３学期を学力向上強化期間と位置付け、小学校５年生から中学校２年生を対象に学力補充を行った。中学校３年生の高校入学試験の期間に合わせ、小学校中学校それぞれで毎週時間設定し、全教職員の協力体制のもとで補充学習を行った。



2　小中合同研修会

○　小中学校それぞれの主題研究の提案授業やＳＥＬ－８Ｓ（児童・生徒の対人関係能力の育成をねらいとした学習プログラム）の提案授業を実施し、小中合同で観察することにより、それぞれが目指す授業イメージの共有化を図った。

○　授業改善を重点課題と位置付け、検証授業日程を調整し、小中学校相互の校内研修に参加できるようにした。

○　入門期の中学校参観、卒業期の小学校参観を行い、つながりの意識化を図ることができる研修会を行った。

○　子どもの人間関係能力を育成するための「ＳＥＬ－８Ｓ」の実践についてなど、教育課題に応じた講演会を実施した。

■　取組の成果と課題

【成果】

○　平成２６年度末に実施したＣＲＴ学力テストの結果では、経年比較で全学年において前年度を上回る結果が得られた。また、平成２７年度の全国学力学習状況調査の結果では、全国との経年比較で、小学校・中学校ともに昨年度を上回るという結果が得られた。

○　保護者セグメント（学校信頼度）調査の結果から、多くの項目が昨年度から改善しており、学力向上に向けた方策やその成果が、保護者にも認められ、学校への信頼回復につながっている。

【課題】

●　子どもが自ら考え、主体的に表現する力の育成に向け、さらなる授業改善を進めていくことが必要である。

2（3） 放課後・土曜・長期休業中等、基礎基本を中心とした取組

放課後、土曜、長期休業中の基礎基本を中心とした取組

■　放課後・土曜日・長期休業中の学力向上の取組の現状

本県の小中学校（政令市を除く。）では、放課後、土曜日、長期休業中に、教育課程外で補充学習等が行われています。通常の授業で理解が不充分な児童生徒や希望した児童生徒等を対象に行われていることが多いようです。

放課後・土曜日・長期休業中の補充学習等実施校数・実施率

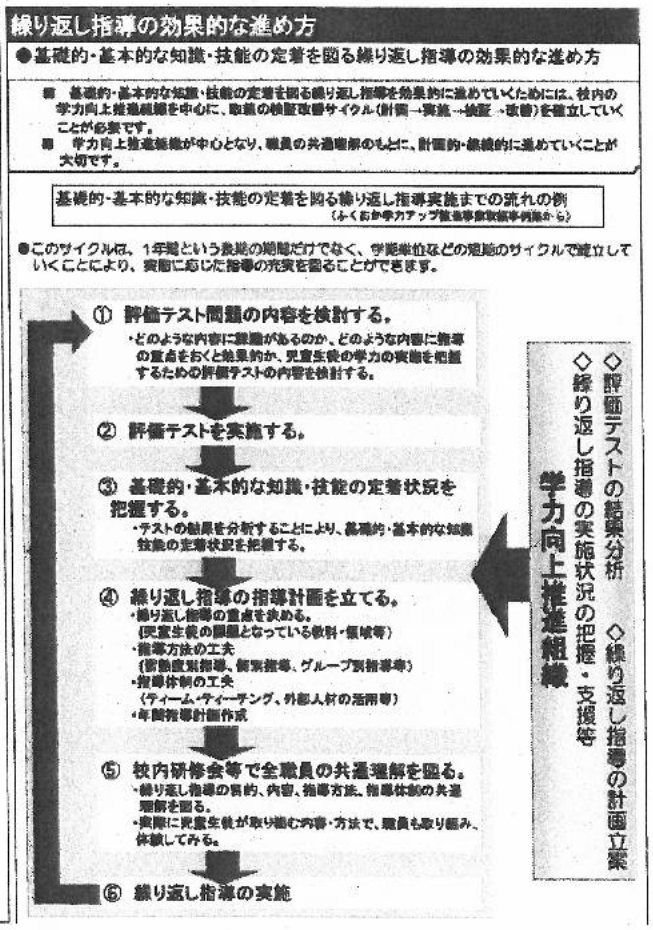
	小学校		中学校	
	学校数	実施率	学校数	実施率
放課後	85	18.1%	104	50.7%
土曜日	4	0.9%	9	4.4%
長期休業中	284	60.4%	156	76.1%

（平成２７年度土曜日・放課後・長期休業中の実施状況調査）

長期休業中が最も多く実施されていますが、その効果としては小中学校とも、「知識・理解、技能の定着」「学習意欲の高まり」が上位にあげられており、もう少しでわかりそう、できそうな児童生徒に有効である様子がうかがえます。また、「きめ細かな指導」も効果の上位にあげられており、学力が未定着な児童生徒に丁寧に寄り添って指導する学校の先生の様子がうかがえます。

■　放課後・土曜日・長期休業中における指導

県では、義務教育課ホームページの「各種資料」「学力アップパッケージ」の中に、「繰り返し指導の手引」を掲載しています。習得すべき学習内容が未定着の児童生徒に、放課後や土曜日等の貴重な時間を有効に活用するために、意図的・計画的な指導内容の充実に御活用下さい。



（義務教育課ホームページ「各種資料」「学力アップパッケージ」「繰り返し指導の手引」）

放課後の補充学習や土曜日、長期休業中における取組（放課後）

ー放課後における補充学習の取組の実際ー

川崎町教育委員会（川崎小学校）

■　取組のねらい

○　１・２年児童の学習習慣の定着や学習意欲の喚起を図る放課後等の学習活動を支援し、学力の向上を図る。

■　取組の組織

教育課程外でおこなうものであるため、川崎小学校児童の保護者・川崎町在住の地域の方々（成人のみ）を学習支援員として募集したところ、１６名の方々の登録があった。

コーディネーターとして教頭が、サポーターとして１・２年担任も学習指導にあたるようにした。

■　取組の年間計画

日　時	取　組　内　容	
８月	計画案立案・提案	ねらい・内容・役割分担等の確認
９月	学習支援員の募集 学習支援員事前研修会 児童への説明 参加集約	ねらい・活動内容をプリントで配布 ねらい・活動内容・関わり方等を具体的に説明 各担任が「学びっ子教室」の概要を説明 申込票を担任へ提出
１０月 ～ ３月	「学びっ子教室」の実施	基本的に宿題を行う その他、担任が作成した学習プリントを行う

■　取組の工夫点

○　児童が毎日取り組む「宿題プリント」の内容の改善
○　宿題が早く終わった児童への次の課題の作成
○　児童が集中して取り組める環境の整備
○　児童の学習意欲を高めるための「学びっ子宣言」の作成と掲示
○　学習支援員の方々が指導しやすくするための準備や説明
○　児童と学習支援員の方々とのコミュニケーションづくり

学習支援している様子

■　取組の実際

○　児童が毎日する宿題プリントを、国語・算数の表裏一枚にした。そして、その内容を、その日に学習したものと既習学習のものを必ず入れるようにした。そうすることで、学習したことが児童にしっかりと定着することをねらいとした。

○　児童の学習意欲をより高めるために、「学びっこ教室宣言」を作成し、全員で宣言を言ってから学習を始めた。(後に、宣言文から宣言歌に変わり、校歌の音程にのせて全員で歌った。)

○　学習支援員の方々にスムーズに指導していただけるように、模範解答を準備したり、指導方法等を説明したりした。また、定期的に会議をもち、学習支援員からの質問や要望等も聞き改善していった。

○　児童の参加状況としては、１年生２０名・２年生２６名の計４６名とかなりの人数になったが、たくさんの学習支援員の方々と教頭、低学年の担任、時には担任外が関わることで、特に学力が厳しい児童への対応をしていった。

○　ただ宿題を見るというのではなく、学習支援員の方々から、鉛筆の持ち方、姿勢、漢字の書き順など、細かいところへの指導もしていただけた。

○　学習の終わりには、学習支援員の方から「ワンポイントアドバイス」をもらい、児童の学習習慣や学力の向上につなげていくようにした。

■　取組の成果と課題

【成果】　　〈「学びっ子教室」に参加している児童のアンケート結果より〉

質　問　項　目	はいと答えた%
「学びっ子教室」は楽しいですか？	１００%
「学びっ子教室」で宿題がきちんとできていますか？	１００%
「学びっ子教室」で勉強がわかりますか？	９５%
「学びっ子教室」に参加してよかったですか？	９５%
「学びっ子教室」の先生たちと仲良くなれましたか？	１００%

○　児童のアンケート結果からもわかるように、参加した全員の児童が楽しく学習できていることがわかる。また、「宿題」は必ず毎日するものということが習慣化されてきた。

○　児童がわからないところを、すぐに聞くことができて教えていただけるので、「わかる・できる喜び」を味わうことができている。

○　その日に学習したところを宿題としてしっかり取り組み、わからないところもわかるまで教えていただけるので、学習内容をしっかり定着させることができた。

【課題】

●　学力がかなり厳しい児童には、もっと時間をかけて指導していきたいが、それには、まだまだ学習支援員の数が足らないというという課題がある。

放課後の補充学習や土曜、長期休業中における取組（土曜、長期休業中）

－嘉麻市『土曜未来塾』－

嘉麻市教育委員会

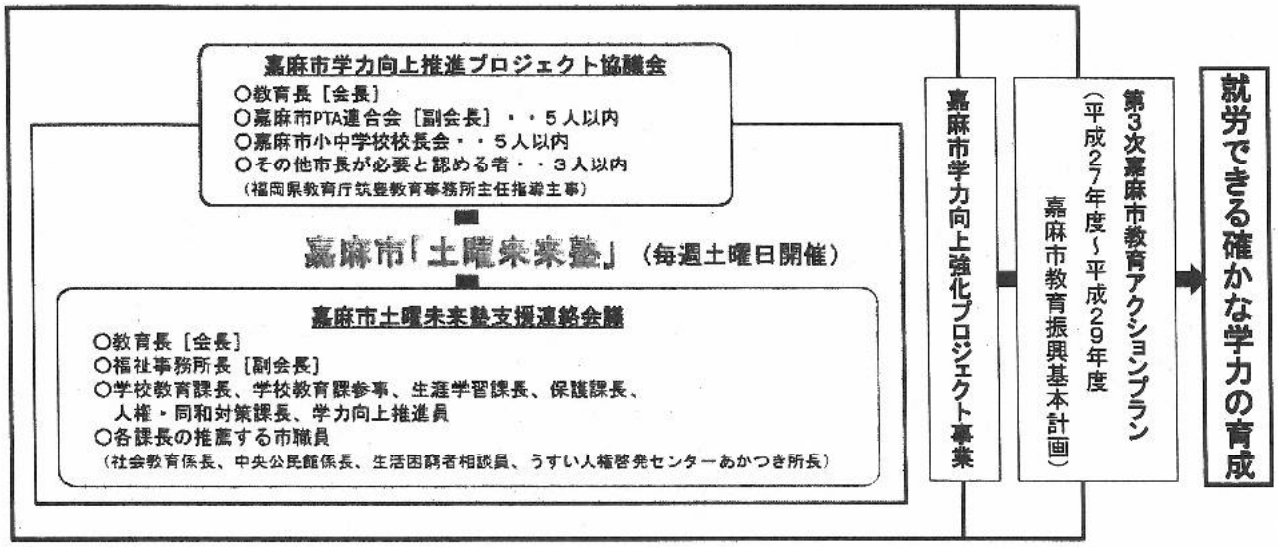
■　取組のねらい

○　基礎、基本の定着及び家庭学習の習慣化を図る。

○　学習に対する自信をつけ、学校での学習態度や学習意欲の向上に資する。

○　取組を推進するにあたっては、『嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会』並びに『嘉麻市土曜未来塾支援連絡会議』を設置し、体制づくりの確立と取組の検証等を行う。

■　取組の組織



■　取組の年間計画

月	取　組　内　容	月	取　組　内　容
4	諸準備	10	学習サポーター募集
5	先進地視察（大分県豊後高田市）、連絡会議①	11	先進地視察（京都府長岡京市・広島県福山市）
6		12	P 協議会①（※11 月に開催）
7		1	４中学校区５会場開塾
8	１中学校区２会場プレ開塾、連絡会議②	2	連絡会議③、P 協議会②
9		3	

■　取組の工夫点

○　地域や家庭、学校、行政（関係課）が連携した組織体制づくり

○　学力向上推進員《退職校長》５名の雇用と担当中学校区（５つ）の割り振り

○　週に１回（金曜日）の学力向上推進員による打合せ

○　学校との連携（週末課題、児童生徒への声かけ等）

○　学習サポーターの募集（近隣及び県内の５つの大学への要請）

■　取組の実際

○　嘉麻市「土曜未来塾」の実施概要

【日時】毎週土曜日（小学生 10：00～12：00、中学生 13:30～15:30）

【場所】５中学校区７会場

【対象】平成２７年度…小学生（第５学年）、中学生（第２学年）

　　平成２８年度以降…小学生（第５・６学年）、中学生（第１～３学年）

【内容】週末課題及び国語、算数・数学の課題別プリント

【人数】小学生…６６名、中学生…２６名

　　学習サポーター３５名［H28.2.2 現在］

○　塾規約の作成

　塾のきまりとして、「塾規約」を作成した。内容は、３項目（塾生心得・持参物・塾内での過ごし方）で構成している。特に、図１のように、塾生の心得を提示し、児童生徒の心構えとともに、指導者側の心も律し、学習に対する集中力高めることをねらいとしている。

図１

塾規約

1　塾生心得

- 塾生は塾に勉強に来ていることを自覚すること。
- 学校の宿題、教科書、ノートや筆記用具、その他学習で使うものを忘れないこと。
- 学習中の私語や他の塾生の迷惑となる行為は厳禁とする。
- 塾の会場として公共施設等を使うので、塾生は、施設の利用規則を守ること。
- 教材・その他教室の設備などは大切に扱うこと。
- 指導者の指示には素直に従うこと。
- 入塾後は、最後まで頑張り通すこと。

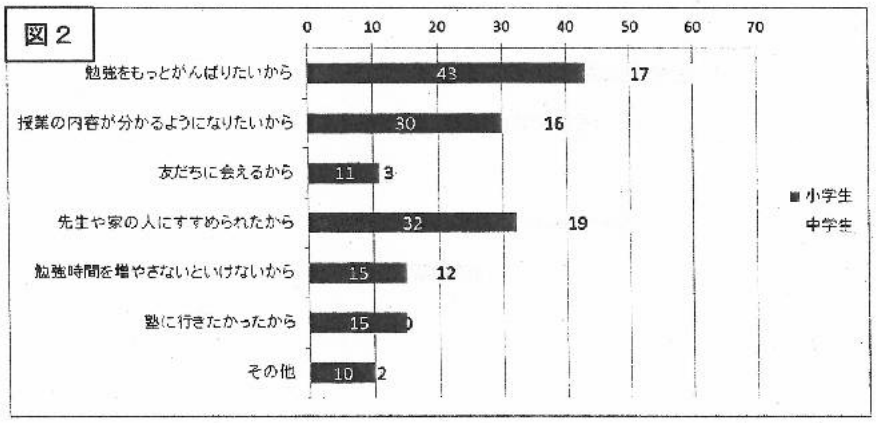
■　取組の成果と課題

【成果】

○　図２は、嘉麻市「土曜未来塾」に参加しようと思った理由を複数回答にて集約した結果である。

　「勉強をもっとがんばりたい」が一番多く、「授業の内容が分かるようになりたい」の回答数とも併せ、児童生徒のニーズに応じた取組であると言える。このことは、出席率（平成２７年１２月末現在）が、８８％の高い出席率であることからも、明らかである。

図２



○　８月から始めた１中学校区の児童生徒に対して、１２月末にアンケート調査（２３名）を行ったところ、「宿題を忘れなくなった」、「学校の授業に役立った」と回答した児童生徒が半数以上いた。また、「テストの点数が上がった」と回答した児童生徒は４０％であった。以上のことから、今後、取組のねらいである基礎基本の定着や家庭学習の習慣化に向け、その効果が期待できる。

【課題】

- 平成２８年度以降の対象児童生徒の拡がりに対応できる指導体制の確立（学習サポーターの確保）
- 取組のねらいの達成度を見取る評価方法のあり方（児童生徒の変容）
- プロジェクト協議会や連絡会議の活性化（学校・保護者・行政及び行政内の他課との密な連携）

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習等の徹底した指導

大牟田市教育委員会（大牟田市立みなと小学校）

■ 取組のねらい

○ 教育課程外における全学級の取組を徹底するとともに，授業時間における実態に応じた指導の充実を図る。

■ 取組の組織

○ 学力向上委員会
構 成 員：校長・教頭・主幹教諭（学力向上コーディネーター）・指導方法工夫改善
下学年（代表１名）・上学年（代表１名）
開 催 日：月１回　随時
審議内容：年間計画の実施に関する連絡調整
当該学年との進度・指導方法連絡調整・学力向上に関わる審議
※ 主幹教諭がコーディネートを行う。

■ 取組の年間計画

学力向上委員会年間計画

月	活動等	内　　容
4	組織作り　市学力検査	・年間計画作成　・取組の方向性及びドリル等繰り返し学習に関する学年での統一作業
5	年間計画確認	・慣用句リスト作成 習熟度別指導に関する研修 家庭学習週間について
6	基礎基本チェック１回目	・２年から６年（算数科）
7	学力向上研修会 算数科補充学習（５年習熟度別） 市学力検査分析	・授業改善 Strategy 及び学力調査問題に関する研修（国語科担当）
8	学力向上研修会 算数科補充学習（５年習熟度別）	・授業改善 Strategy 及び学力調査問題に関する研修（算数科担当）
9	全国学力調査分析	・結果を全員で確認
10	基礎基本チェック２回目	・チェックの内容（慣用句テスト含む）
11	基礎基本チェック分析	・達成できていない児童の把握と指導のあり方 全員で確認
12	基礎基本チェック見直し	・算数科・国語科・社会科・理科　各担当
1	学力向上年間計画見直し	・来年度の重点の見直し　各学年ごと
2	基礎基本チェック３回目	・チェック分析（達成できていない児童の把握と指導のあり方）　・全員で確認
3	年間見直し	・本年度の指導内容の基礎基本チェックとそれに対応した学期末休業中の宿題の作成　全員

■ 取組の工夫点

＜朝の活動について＞
○ 読書タイム週２回（学力分析から課題であったため）
○ スポーツタイム週３回（授業開始前に脳を活性化させるため）
＜みなとタイムについて＞
○ 基礎基本チェック問題の実施
・昼５校時開始前の１５分間を帯で設定
・全国学力・学習状況調査問題の分析を基に作成したプリント
・児童一人一人の状況把握，並びに指導へ生かすチェックリストの活用
・チェックリスト（指導内容，理解・未理解を視覚的表示）※ P2 参照
・サイクルの確立（問題へトライ，○付け→入力→分析→指導へ生かす→
問題へリトライ，○付け→入力→分析→指導へ生かす）
・音読教材を選定し，はっきりとした声で音読することの徹底
＜授業について＞
○ 授業のねらいと「めあて」の整合の徹底と自己評価の日常化
○ 学習過程における共通実践→国語科：学習過程の中に音読を必ず位置付ける
算数科：適用問題まで必ず行う
○ 全国学力・学習状況調査問題を意識した教材研究に関する研修

■　取組の実際

＜みなとタイム及び学力アップタイム＞

○　基礎基本チェックについては，一つ下の学年の内容で実施し，問題の内容は，全国学力調査の問題を主幹教諭が分析し，作成した。

○　６月・１０月・２月の「みなとタイム」及び「学力アップタイム」（水曜日６校時）に基礎基本チェック問題に取り組んだ。各学級の担任が○付け後チェックリストへ入力した。

　６月・１０月・２月の問題は同様の問題にした。繰り返し行うことで学力の定着を図る。特に，理解できていなかった児童が理解できるようにするためである。

○　主幹教諭は，チェックリストを随時確認し，学力アップタイムにおける取組を徹底的に行うことや課題のある単元等についての指導のあり方について，各担任へ指導・助言を行った。

○　チェックリストでのつまずきを土日の家庭学習の課題とした。

○　夏季休業中の補充学習では，チェックリストをもとに，算数科における習熟度別学習を行った。

＜授業＞

○　授業においては，ユニバーサルデザインの視点に立ってねらいと整合した「めあて」を提示し，児童の学力の分析をもとに，国語科の時間に必ず行う音読や算数科の時間に必ず行う適用問題を実施する際の留意点を，主幹教諭が説明しきちんと行うように，職員全員で確認した。

○　管理職による教室訪問や教育活動自己評価において，取組の定着状況を把握し，各担任と協議を行いながら，改善に向けての具体的な指導方法を検討した。

○　職員研修を夏期休業中に重点的に行い，指導の際に大切にすべきことを共通理解し，調査問題を意識した教材研究を２学期に生かせるようにした。

5年○組　基礎基本チェックリスト

年組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23			
	割り算のひっ算 2ケタ÷1けた 余りあり	割り算の3ケタ÷1ケタ算	割り算のひっ算 3ケタ÷2ケタ算	角の大きさ 360度からひく	角の大きさ 180度からひく	三角定規を使った計算	四則計算のやりかた	小数の計算	小数の割り算 あまりあり	分数の足し算 仮分数	分数の引き算 仮分数	分数の引き算 帯分数	面積	三角定規の角度	変わり方	長さと距離	がい数	大きな数の計算	小数の掛け算 文章題	小数の割り算 文章題	10倍 100倍 1000倍の数	体積	時間と時刻	○	△	正答率
	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22	1	96%
	○	○	△	△	○	△	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○	○	△	○	△	△	11	12	48%
	○	○	△	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	9	14	39%
	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	21	2	91%

※　児童名，指導内容，理解の有無（○，△）を入力　△のみセルが黄表示

■　取組の成果と課題

【成果】

○　チェックリストを活用することで，児童の実態把握を明確に行うことができ，学習の課題を可視化し，見えやすくなることで，きめ細かな指導や授業で重点的に指導することの意識化及び，焦点化へつなげることができた。

○　全国学力・学習状況調査の結果では，昨年度より学力が大きく向上した。特に，算数科では，Ａ・Ｂ問題共に伸びが大きかった。さらには，児童質問紙において，国語科・算数科が分かる（よく，だいたい）と回答した児童の割合が多かったことから，児童自身も学力の向上を実感している。

【課題】

●　共通実践で行う重点事項の焦点化

●　国語科・算数科で定着した取組についての他教科への広がり

●　各学年・学級の実態や状況に応じた主幹教諭から担任への指導

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習等の徹底した指導

福智町教育委員会（上野小学校）

■ 取組のねらい

○ 朝の活動

・毎日繰り返し「音声計算」「全漢字音読」「速読」を行う。
「音声計算」：計算力を高める。　「全漢字音読」：各学年の漢字の定着を図る。
「速読」：読解力を高める基礎となる「すらすら」読みを鍛える。

○ 全漢字前倒し指導・漢字コンクール・漢字検定

・全漢字前倒し指導での全漢字の定着を図る。

■ 取組の組織

○ 学力向上推進委員会
校長、教頭、主幹、研究主任、学力向上コーディネーター（指導方法工夫改善）
→計画・提案・検証を行う。

朝の活動
各学級担任及び指導工夫改善担当、課題対応非常勤講師とのＴＴ指導

全漢字前倒し指導・漢字コンクール・漢字検定
「全漢字前倒し指導」：各学級担任及び指導工夫改善担当、課題対応非常勤講師
「漢字コンクール」「漢字検定」：各学級担任及び指導工夫改善担当、主幹教諭

■ 取組の年間計画

１学期	４月	５月	６月	７月
朝の活動	職員に提案 取組スタート			速読調査１回
漢字前倒し指導	全漢字前倒し指導 (2~6 年)		漢字コンクール スタート(2~6 年)	
検　証	学力向上推進委員会(今年度の取組について４月・７月) 全国学力学習状況調査　県学力診断テスト			

２学期	９月	１０月	１１月	１２月
朝の活動				
漢字前倒し指導	全漢字前倒し指導 (1 年)	漢字コンクール スタート(1 年)		漢字コンクール 表彰(2~6 年)
検　証	学力向上推進委員会(漢字コンクール修正９月・１２月)			

３学期	１月	２月	３月
朝の活動		速読調査２回目 音声計算集会	全漢字音読次学年(1~5 年) 総復習(6 年)
漢字前倒し指導	漢字コンクール 表彰(1 年)	漢字検定 漢字検定再チャレンジ	
検　証		ＮＲＴ学力検査（２月） 学力向上推進委員会(評価と反省２月)	学校自己評価（３月）

■ 取組の工夫点

○ 徹底のための工夫

① 朝の活動
・提案時、模範指導＋実演＝方法の共通理解
・職員の複数配置による指導の徹底
・全校放送による時間厳守
・記録用紙による児童の意欲化と職員の意識化

② 全漢字前倒し指導・漢字コンクール・漢字検定
・「全漢字前倒し指導」では、提案時、模範指導＋実演＝方法の共通理解
・職員の複数配置による指導の徹底
・「漢字コンクール」「漢字検定」→各学級担任と各学年担当職員による「とめ、はね、はらい」の徹底指導・評価＝意欲的な漢字練習　(家庭学習を中心にした取組)
・成績発表（児童昇降口前掲示、給食時発表）
・表彰

■　取組の実際

○　朝の活動

８：３４「全校放送」
８：３５「音声計算」①個人２分間練習②ペア１分間練習③記録
８：４１「漢字音読」①個人２分間練習②ペア１分間練習③記録
８：４７「速読」①個人１分間速読②記録　週ごとに読む場面を変更

○　全漢字前倒し指導

ドリル「全漢字練習」を使って、１時間に１ユニットずつ進む。

・１時間の流れ：１文字ずつ①読み②筆順確認･指書き③空書き④なぞり書き⑤写し書き
・２~６年生は、４月中に２０時間指導　　・１年生は、９月中に２０時間指導

○　漢字コンクール

・２~６年　６月～１２月まで１０回（１０ユニット）　　１年は１０月から
・第２・第４火曜日８：３５～８：４５（朝の活動時間を使用）
・読み１０問、書き１０問　計２０問（５点×２０問＝１００点）
・成績発表：学年平均点（児童昇降口前掲示、給食時発表）
・表彰：個人：１０回満点(金賞)、９回満点(銀賞)、８回満点(銅賞)
　　＋筆順・文作り　ポイント加算
・コンクールの２週間前から、朝の活動での「漢字音読」の時間に書き順の確認

○　漢字検定

・２~６年：２月２日　　１年：３月１日　　１時間目（４５分間）
・書き１００問　各ユニットから１０問×１０ユニット　１問１点１００点満点
・表彰：個人：１００点(名人)、９９~９５点（１級)、９４～９０点（２級）
・再チャレンジあり（２月１６日）

○　速読調査

・７月と２月に１分ずつ行い、伸びを比較する。確実に読んだ文字数をカウント
・取り出し可能な時間に、児童一人ずつを二人の担任外教師で行う。
・教材文は、他教科書の同学年の説明文を使う。

○　音声計算集会

・２月２６日　朝の活動時間　低・中・高学年ごとに行う。
・低学年：１年生の学習内容　　中学年：３年生までの学習内容
　高学年：５年生までの学習内容
・個人の部：通常通りのペア読みで解いた問題数を記録：１位のみ表彰
　団体の部：学年対抗リレー形式：タイムを表彰

■　取組の成果と課題

【成果】

○　「漢字コンクール」「速読」で成果が見られた。

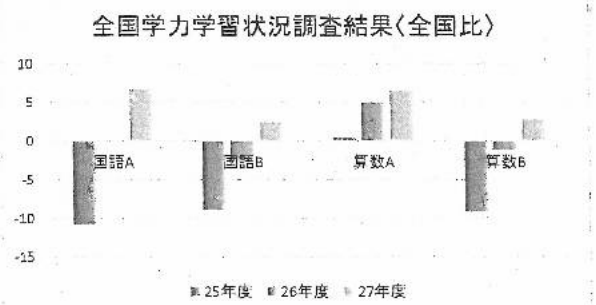
・「漢字コンクール」では、全校の平均点がほぼ９０点以上である。(H 27 年度)

回	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回	９回	10 回
平均	**92.0**	**90.9**	**90.3**	**92.1**	**91.8**	89.5	**90.4**	**91.7**	**92.0**	**92.1**

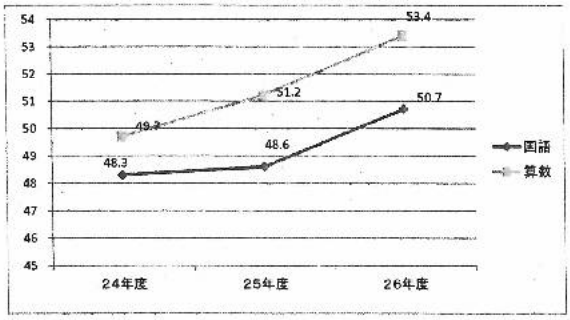
・「速読」ほとんどの学年が目安（目標）字数を上回った。(H 26 年度)

学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年
変化	116 → **170**	156 → **216**	223 → **282**	342 → **389**	398 → **437**	360 → **396**
目安	１２０字	１８０字	２４０字	３００字	３６０字	４２０字

○　全国学力学習状況調査、県学力テスト、ＮＲＴ学力検査で、国語「言語についての知識・理解・技能」・算数「数と計算」で、成果が見られた。また、その他の領域の基盤となっていると考えられる。



〈 NRT 学力検査推移〉



【課題】

●　「音読計算集会」の取組を各学期ごとに行い、朝の活動をもっと生かせるようにする。
●　「速読」は、朝の活動だけでなく、国語とそれ以外の教科書読みでも活用していく。

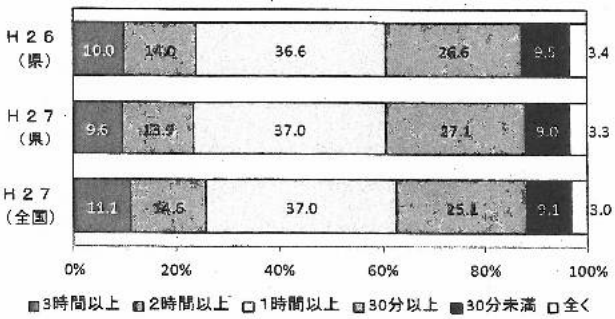
2 (4) 学習習慣形成のための家庭学習の指導

学習習慣形成のための家庭学習の取組

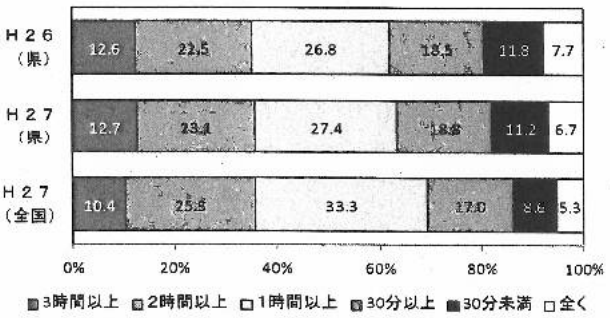
■　家庭学習の現状

本県の家庭学習の時間については、１時間未満の児童生徒は減少傾向にあるものの、全国と比較すれば、家庭学習の時間が少ない児童生徒の比率が高い状況にあります。

小学校　家庭学習時間



中学校　家庭学習時間



（Ｈ２６・Ｈ２７年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果）

■　学校、保護者が連携した家庭学習の充実

各市町村教育委員会や学校では、家庭学習の充実のために、ＰＴＡと一体となった取組や啓発等を行っています。県でも、義務教育課ホームページの「各種資料」「学力アップパッケージ」に、「家庭学習の手引」を掲載しております。家庭学習の充実のために御活用いただきたいと思います。

	小学校	中学校
全教職員共通理解を図った上で、家庭学習の行い方の指導をしている	97.2%	87.3%
全教職員共通理解を図った上で、家庭学習の啓発を行っている	97.6%	90.2%

（H27 年度教育課程実施状況調査）

課題を出すときのポイント

○　課題のねらいをはっきりとさせ、児童にも伝えることで、児童が家庭学習の意義を理解し、目的を持って取り組めるように心がけましょう。
○　繰り返しの練習だけでなく、調べたり考えたりしたことを自分の言葉で書く課題も取り入れましょう。

「ねらい」に応じて、課題の出し方を工夫しましょう。

その日の学習を振り返る

今日の授業　算数「四角形や三角形の面積」～面積の公式の発見～

■平行四辺形の面積の公式
平行四辺形の面積＝底辺×高さ

平行四辺形の面積は、底辺に高さをかければ見つかるんだ！

家庭学習
「平行四辺形の面積が、底辺×高さで求められる理由を、図や言葉でもう一度説明してみよう。」
＋
公式を当てはめ、確実に面積を求めることができるようにする習熟練習

これからの学習の見通しを持つ

今日の授業　国語「大造じいさんとガン」～読みのめあてづくり～

【読みのめあて】大造じいさんの残雪に対する思いがどのように変わるのか読み取ろう。

これから大造じいさんの思いを中心に読んでいくのね！

家庭学習
「大造じいさんの残雪に対する見方が大きく変わったところはどこか、わけをはっきりさせて書こう。」
＋
新出漢字の書き取り練習や新出語句の意味調べ

（義務教育課ホームページ「各種資料」「学力アップパッケージ」「家庭学習の手引（小学校）」）

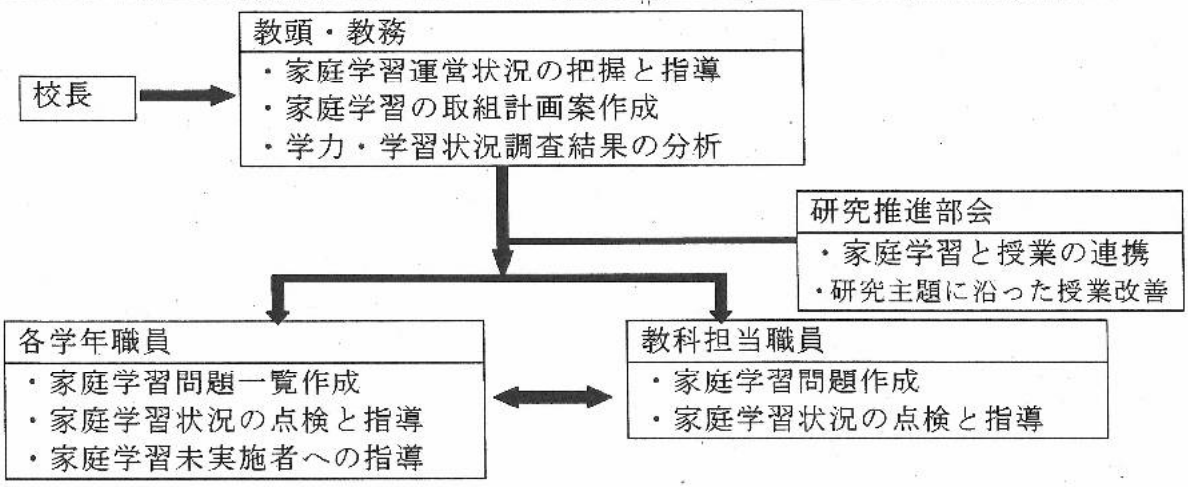
家庭学習の定着・習慣化を図る取組

みやこ町教育委員会（犀川中学校）

■　取組のねらい

○　全国学力学習状況調査の質問紙から本校の実態として、メディアへの依存が高く、家庭での学習状況が低いという結果が出ている。このことから家庭での過ごし方を工夫させ、家庭での学習時間を増やすとともに、全く家庭学習をしない生徒を減らす取組が必要である。

■　取組の組織



■　取組の年間計画

1　年間を通して

（1）家庭学習(宿題)の課題作成・提出・点検・指導

（2）毎週金曜日に、次の週の課題（５教科）提示

（3）家庭学習が出来ていない生徒への放課後指導【※１】

2　定期考査期間中の取組

（1）ノーメディアの取組

（2）生徒会による課題の作成

3　学期末

（1）自学ノートの表彰

（2）家庭学習の成果と課題を協議、改善策の検討

※１放課後指導の様子

■　取組の工夫点

○　学年所属職員による課題作成・提示、点検、指導のサイクルの確立

○　生徒会による課題作成、自学ノートの表彰による家庭学習への意欲の向上

○　ノーメディアの取組、「家庭学習の手引き」等の活用による家庭との連携

■　取組の実際

1　学年所属職員による課題作成・提示、点検、指導のサイクルの確立

（1）授業の復習問題を中心に、家庭で取り組める基本的な課題を作成し、提示した。

ア　漢字や英単語、教科の復習問題、プリントの模写など、３０分から１時間で終わる内容の課題にした。

イ　課題の作成は、教科担任が行った。印刷は、学年全員で行った。

ウ　金曜日に次の週の課題をまとめて提示した。

（2）学年全体(学校全体)で点検を行った。

（3）自学ノートが提出できなかったり、間違いが多かったりした生徒に対して、放課後指導を行った。

（4）学期末に、学年の全教員で家庭学習の取組の成果と課題を明らかにし、次学期の改善を図った。

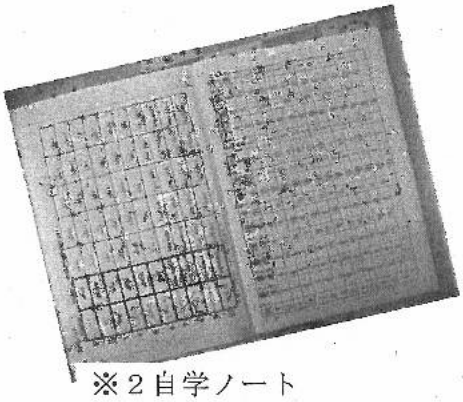
2　生徒会による課題作成、自学ノート【※２】の表彰

（１）生徒会による課題作成

定期考査前、生徒会学習委員会が予想問題を作成し、それを課題として提示し、試験勉強に取り組ませた。定期考査中の取組中の自学ノートの提出率は、普段より高くなった。

（２）自学ノートの表彰

学期末に自学ノートの冊数が多い人や、前学期より冊数が増えた人を表彰した。学期が進むにつれ、表彰される生徒の人数が増えてきた。



※２自学ノート

3　ノーメディアの取組、「家庭学習の手引き」等の活用による家庭との連携

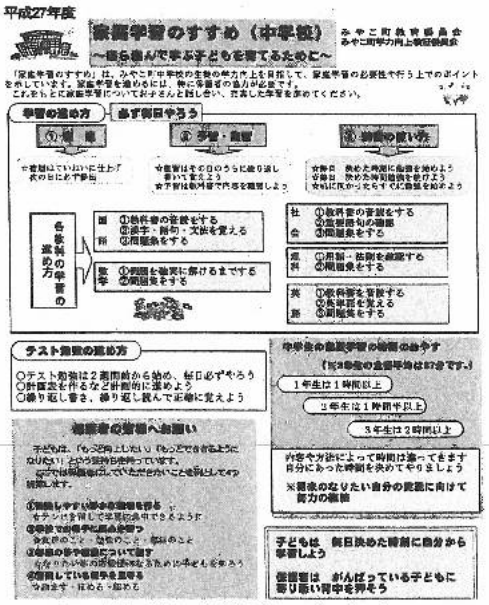
（１）ノーメディアの取組

小中一貫した家庭学習の定着と生活習慣の確立の観点から、校区として「ノーメディアチャレンジ」に取り組み、テレビやゲームのスイッチをたまに消してみたり、携帯やスマホから離れたりする取組を行った。取り組み方は中学校の定期考査に合わせて、定期考査３日前から定期考査期間中実施した。様々なメディアに何となく接している生活を見つめ直し、家族のふれあいの大切さを再認識する家庭が徐々に増えてきた。

（２）「家庭学習の手引き」等の活用

犀川中学校校区教育施策検討委員会が作成した「家庭学習の手引き」冊子【※３】と「家庭学習のすすめ」チラシ【※４】を基に、生徒や保護者に対して、家庭学習の重要性や仕方について配付・説明を行った。ＰＴＡ総会、保護者会、家庭訪問等あらゆる機会に保護者へ啓発を行った。その他の取組として、中学校区(小中連携)で家庭学習の重点項目を設定し、それを家庭学習の重点にしてもらうように保護者にお願いした。家庭への啓発や、家庭との連携を図ったことで、生徒に対して、家庭学習に関する声かけをする保護者が少しずつ増えてきた。

※３家庭学習の手引き



※４家庭学習のすすめ

1～3の取組を通して、徐々にではあるが、毎日自学ノートを提出する生徒が増えてきた。また、家庭で土日に全く学習をしなかった生徒が、約２０％から約８％に減少した。

■　取組の成果と課題

【成果】

○　学年所属職員による課題作成・提示、点検、指導のサイクルの確立によって、生徒の学習状況の情報交換ができ、職員全員で一貫した指導ができた。

○　生徒の家庭学習への意欲を持続させ、継続的に取り組ませることができたのは、以下の取組が効果的であったと考える。

・基礎的基本的な課題（問題）を中心に家庭学習に取り組ませたこと。
・生徒会による課題作成や自学ノートの表彰に取り組んだこと。
・家庭への啓発・連携によって、保護者の生徒への関わりが増えたこと。

【課題】

●　教科の宿題との兼ね合いや、曜日によって教科が重なる日の調整が必要である。

●　生徒自身で主体的に課題を設定し、その解決に取り組むための手立てが必要である。

家庭学習の定着をめざす家庭学習実施サイクルの構築

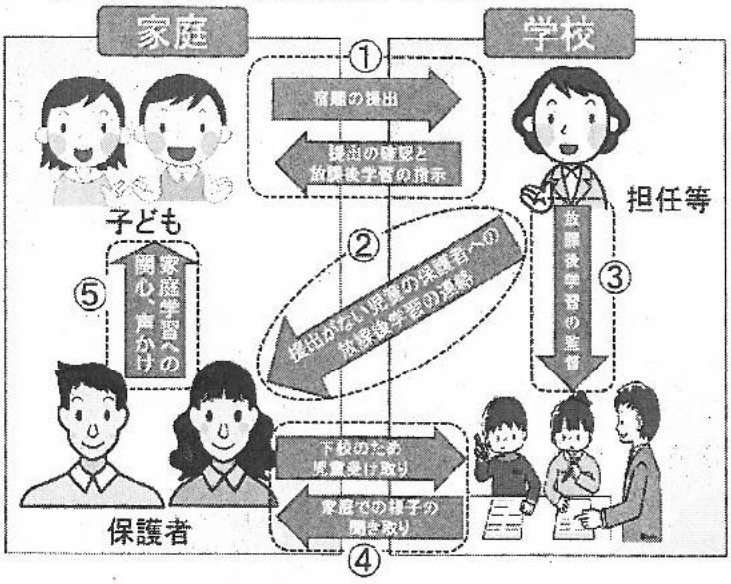
うきは市教育委員会

■ 取組のねらい

○ 家庭学習の量的・質的向上をめざし、家庭学習をしていない子どもをゼロにするとともに、家庭学習をするのが当たり前の学校文化を創る。

■ 取組の組織

（江南小学校）組織体制づくりについて



左図①～⑤の説明

① 朝、担任が家庭学習の提出の有無を確認し、提出がない場合は、放課後学習を指示する。
② 担任が保護者へ本人が家庭学習を忘れているために、放課後学習を行うこと及び下校の迎えの連絡をする。
③ 担任、指導方法工夫改善担当、教頭等で放課後学習の指導、監督を行う。
④ 終了時刻に保護者が児童を迎えに来る。その時に児童の家庭学習の取組の様子（量や内容等）を保護者と話す。
⑤ 保護者が家庭学習に関心を持ち、児童への声かけを行う。

（吉井中学校）家庭学習の評価について【プラス１ノート（検定会）】

① 毎日、提出の有無をクラス担任又は学年の教員で確認し、提出がない場合は、昼休みや放課後を使って個別指導を行う。（学年教員、管理職）
② ３か月を１クールとして、年間４回の検定会を行い、生徒の取組を評価するとともに、改善点を話合い、次のクールへとつなげる。（６月、９月、１２月、３月実施）
③ 優秀ノートを表彰し、校内掲示をするとともに、学校通信等を利用して家庭への発信を行う。

■ 取組の年間計画

（江南小学校）

期　日	行事等	内　容
５月	PTA 総会	児童の実態と取組の内容について説明 **※うきは市教育委員会作成「家庭学習のススメ」の配布、説明**
６月	職員会議①	家庭学習の提出の仕方や保護者への連絡、放課後学習の監督など役割の確認
	学校通信	家庭学習徹底の取組の説明
７月	職員会議②	１学期の成果と課題の整理
	保護者集会	１学期の成果と課題について保護者と共有化 **【家庭での子どもの様子を中心に】**
１２月	職員会議③	２学期の成果と課題の整理
	保護者集会	２学期の成果と課題について保護者と共有化 **【子どもの変容（成果）を中心に】**
３月	職員会議④	３学期の成果と課題の整理
	保護者集会	３学期の成果と課題について保護者と共有化 **【来年度の取組の方向を中心に】**

■　取組の工夫点

○　家庭学習の丸付け等を、担任外が行い、担任の負担を軽減するとともに児童の学習の状況を学校職員全体で把握するようにしたこと。(江南小学校)
○　放課後学習が終わった後の児童迎えを保護者に依頼し、児童の安全を確保すると共に、家庭学習の取組の様子の聞き取りをし、個に応じた宿題の量を調整したり家庭での声かけをお願いしたりするようにしたこと。(江南小学校)
○　子ども達の自主的な家庭学習の取組をめざし、学年単位でプラス１ノートの検定会を行い、優秀ノートの表彰や掲示を行うとともに、学校通信等により、家庭へ検定会の取組を紹介したこと。(吉井中学校)
○　家庭学習の量的な充実を図るとともに、質的な改善を図ることができるように、年間４回の検定会を行い、検定会後、課題を出し、改善策を検討していること。(吉井中学校)

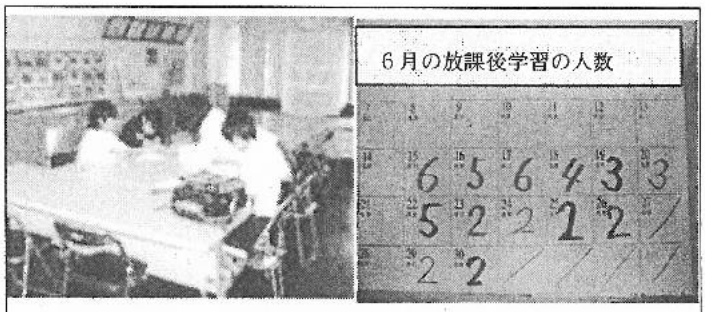
■　取組の実際

【保護者への説明（江南小学校）】

PTA 総会や学校通信により、下記の内容で保護者に説明を行った。

＜家庭学習徹底の３つの目的＞
①　学力向上　　②　自尊感情の向上　　③　保護者との連携の強化
＜家庭学習徹底の方法＞
○　前日出された家庭学習ができていない児童は一斉下校を行わず会議室に残り学習をする。〈下校後４０分程度〉
○　低学年が残った場合、高学年と下校させる。
○　高学年が残った場合、帰りが一人にならないように、保護者へ迎えを依頼する。

【放課後学習の様子（江南小学校）】



○　家庭学習を提出できなかった児童数（＝放課後学習の人数）を写真のように記録して職員室の掲示板に貼り、全職員で成果と課題を共有化するようにしている。

【プラス１ノート検定の実施方法（吉井中学校）】

①　学年の GL の時間（一時間）使って行う。
６月２７日（金）④１年⑤２年⑥３年
②　多目的ホールで行う。
（学年全体が集合して行う。）
椅子と筆記用具とプラス１ノートをもって各クラス２列で並ぶ。
③　生徒が自分のプラス１ノートをもって並び、学年の先生方に検定をしてもらう。学年の先生方は一列に並び、ノートを見て１級から６級のどれに当てはまるか決定し、一番後ろにゴム印で検定印を押し、級を書き入れる。
④　１級・２級について、判断が難しいところもあるため、２級以上の生徒については、表彰があることを知らせ、ノートを預かる。あとで学年職員で検討して、１級、２級を決定し、報告する。
⑤　待っている生徒はプリントをする。

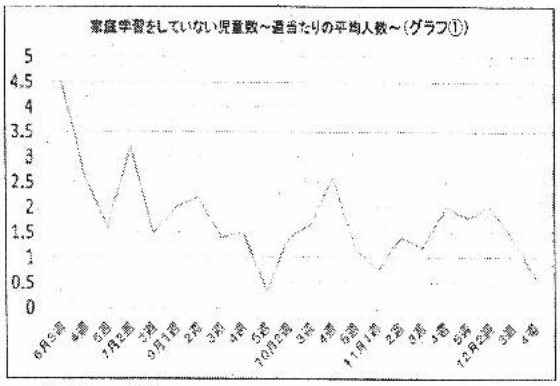
■　取組の成果と課題

【成果】

○　家庭学習を提出しない子どもの減少（グラフ①）
○　家庭学習への声かけが増えた家庭の増加
○　ノート検定において、１，２級取得者における学力低位層の減少

【課題】

●　日常の授業とつなげた家庭学習の内容の検討
●　家庭学習のマネジメント（内容管理とノート検定における評価基準の再検討）



（グラフ①：江南小学校全校児童（127 名）のデータ）

小中連携した家庭学習充実の具体

水巻町教育委員会

■　取組のねらい

○　家庭学習時間や家庭学習環境の改善を柱として水巻町の各小・中学校やＰＴＡ連合会と連携した取組を実施することによって、家庭学習における本町の課題を解消し、児童生徒の学力向上に資する。

【水巻町の家庭学習の課題】

課題①：平日に１時間以上家庭学習する割合が低い。

課題②：平日のテレビＤＶＤの視聴、平日のスマホ・インターネット等を３時間以上使用する割合が高い。

（全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙より）

■　取組の組織

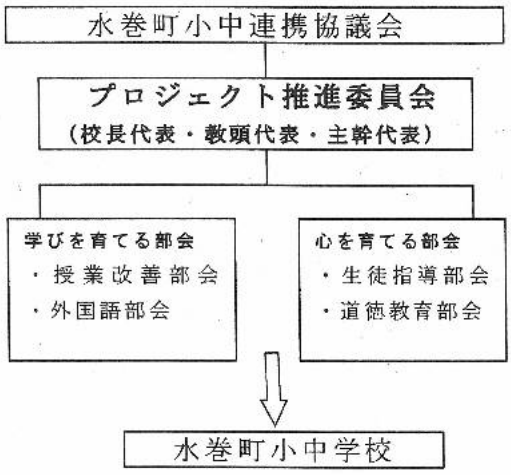
１　水巻町小中連携の組織

水巻町小中連携協議会（教育委員会、校長、教頭、主幹）を設置し、プロジェクト推進委員会が中心となって事業の企画・運営を行う。４つの部会（授業改善、外国語、生徒指導、道徳教育）に分かれ、それぞれの課題に応じて小中連携の事業を進めている。

２　プロジェクト推進委員会

・小中連携全体計画の作成
・全体研修会の企画運営
・各部会や会議の進捗状況の掌握と検討
・中一不登校対策事業での分析と課題検討
・ふくおか学力アップ推進事業での学力分析及び具体的取組の検討

→ここでの「具体的な取組」の中で家庭学習充実に向けた取組を担当している。



■　取組の年間計画

【年間実施計画】（家庭学習の充実に向けた取組に関するもののみ）

月	取　組　内　容
4	「水巻町家庭学習の手引き」の配布（平成25年度3月末） 各学校において「水巻町家庭学習の手引き」運用について周知 「水巻町家庭学習の手引き」を受けて各校の「家庭学習の手引き」を改訂
5	ＰＴＡ総会や教育説明会等を活用して「水巻町家庭学習の手引き」及び各校における「家庭学習の手引き」を周知　各校における家庭学習強化週間の実施
6	各校における家庭学習強化週間の実施
7	各校における家庭学習強化週間の実施 第１回学力向上検証委員会（学力向上の取組を地域・家庭代表等へ報告）
8	教育力向上夏期研修会　分科会において「小中連携の視点行う学力向上の取組」について討議（水巻町小中学校全教職員参加）
9	全国学力学習状況調査の全町分析　各校における家庭学習強化週間の実施
10	全国学力学習状況調査の全町分析の各校への周知　　スマホ実態調査実施
11	第２回学力向上検証委員会（全国学テの分析報告と家庭学習の充実に向けて検討） 北九州教育事務所による「学力向上に係るフォローアップ学校訪問」（水巻中） 第１回全町一斉家庭学習強化週間の実施（16日～22日）
12	各校で保護者に向けて第１回全町一斉家庭学習強化週間の結果報告
1	各校における家庭学習強化週間の実施
2	第２回全町一斉家庭学習強化週間の実施（15日～21日）各校で保護者に向けて結果報告
3	取組のまとめ　来年度の計画づくり

■　取組の工夫点

全国学力・学習状況調査等の課題に基づく取組

1　小中連携した取組

2　町ＰＴＡ連合会と連携した取組

■　取組の実際

1　小中連携した取組

年度当初からスムーズに小学校・中学校が連携した取組ができるように、小中連携生徒指導部会が作成した「水巻町家庭学習の手引き」を平成 26 年度 3 月末に配布した。平成 27 年度当初より小中学校が「小・中学校 9 年間を見通した家庭学習をめざす」という共通のスタンスで「水巻町家庭学習の手引き」（資料１）に基づいて、各校が「家庭学習の手引き」を改訂し「家庭学習強化週間」を設定する等の取組を行った。

更に、小中連携した取組を充実させるために「全町一斉家庭学習強化週間」（第 1 回：11 月 26 日～22 日、第 2 回 2 月 15 日～ 21 日）を実施した。この取組の視点は、課題①を受けて各学年の学習時間の目標を設定し、期間中の学習状況の記録を児童・生徒に行わせるようにした。また、課題②を受けて、ノーメディア（学習中はテレビ等を見ない）にした。

全町一斉の取組にすることで、家庭学習の提出率が高まった。また、児童・生徒や保護者の感想から学習環境の重要性を意識するもの等が見られた。

小・中学校9年間を見通した家庭学習をめざしましょう

学　年	内　容	保護者の関わり方（例）
小学1・2年生 家庭での学習時間 30分以上	○音読　○読書 ○日記や作文（場面を考えて） ○漢字や計算練習 1年生：ひらがな、カタカナ 漢字 80 字の読み書き 足し算・引き算 2年生：新出漢字 160 字の読み書き かけ算	◎　そばにいて、いっしょに読んだり、正しく書いたりできるように見守りましょう。
小学3・4年生 家庭での学習時間 45分以上	○音読　○読書 ○日記や作文（中心をおさえて） ○漢字や計算練習 3年生：新出漢字 200 字の読み書き 割り算・かけ算の筆算 4年生：新出漢字 200 字の読み書き 割り算の筆算・小数の足し算・引き算 ○ローマ字の学習 ○国語辞典を使っての学習	◎　ていねいに書いているか、計算が正しくできているかなど、後でノートやプリントを見てあげましょう。
小学5・6年生 家庭での学習時間 60分以上	○読書 ○日記や作文（自分の考えを根拠にして） ○自主学習（授業の予習・復習） ○漢字や計算練習 5年生：新出漢字 185 字の読み書き 分数の足し算・引き算 小数の計算 6年生：新出漢字 181 字の読み書き 分数のかけ算・割り算 速さ・比の学習 ○国語辞典や漢字辞典を使っての学習 ○新聞やインターネットを活用した学習	◎　学校での学習内容を話題にし、子どもが興味を持っている内容に耳を傾けてみましょう。
中　学　生 家庭での学習時間 90分以上	○読書 ○日記や作文（場面を工夫してわかりやすく） ○自主学習（授業の予習・復習等） ○漢字や計算練習 1年生：常用漢字 300 ～ 400 字読める 900 字書ける 正の数・負の数の計算 文字式の計算 2年生：1年生で学習した常用漢字に加えて 350 ～ 450 字読める 文字式・連立方程式の文章式の計算 3年生：その他の常用漢字のだいたいが読める 文章問題の計算ができる ○英単語の暗記 ○新聞やインターネットを活用した学習 ○定期考査に向けての計画的な学習	◎　学習の計画表に目を通したり、学習内容に関心を持ったりして、家族の話題にしましょう。

資料１　水巻町家庭学習の手引き

2　町ＰＴＡ連合会と連携した取組

「全町一斉家庭学習強化週間」の取組をより充実させるために、水巻町ＰＴＡ連合会が主導し、強化週間の取組を推進することにした。（資料2）

また、課題②を受けて、小学校で（中学校は、昨年度実施済）「携帯・スマホに関するアンケート」を実施し保護者の意識改善に向けた取組を始めた。

ＰＴＡ活動と連携した取組にすることで、強化週間の取組状況の記録の提出率が９０％以上となり取組への意識の高まりが見られた。

平成２７年１１月１３日

保護者各位

水巻町ＰＴＡ連合会長
水巻町小中学校長

水巻町内一斉「家庭学習強化週間」の取組について

晩秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと拝察いたします。日頃から保護者の皆様には、学校に関わる教育活動に対しご理解とご協力をいただき、深く感謝を申し上げます。

さて、水巻町内の各小中学校では、児童生徒の基礎学力の定着・学力向上を目指して、工夫した取組が行われています。しかし、学力アップをより効果的にするには、家庭の協力による「家庭学習の改善」が必要です。そこで、水巻町ＰＴＡ連合会では、小中学校と協力して家庭学習の定着に向けた取組を行うことにいたしました。

つきましては、ＰＴＡと学校が合同で、町内一斉【家庭学習強化週間】を下記のとおり取組みます。この運動は、中学校の期末試験前学習期間に合わせて行い、小中連携による

資料２　町ＰＴＡ連合主導による水巻町一斉「家庭学習強化週間」の保護者案内

■　取組の成果と課題

【成果】

○　小・中学校の連携意識を涵養していくことによって、家庭学習習慣の定着や９年間を見通した系統的な指導等の教育効果の高まりが見られた。

○　ＰＴＡ活動と連携することによって、家庭学習習慣の重要性や家庭学習環境の整備等を児童・生徒、保護者に向けて効果的に啓発することができた。

【課題】

●　「家庭学習強化週間」を年度当初より計画的に各校の行事予定に位置づけることによって更に取組は充実するものと考える。

小中連携による家庭学習の指導

大任町教育委員会

■ 取組のねらい

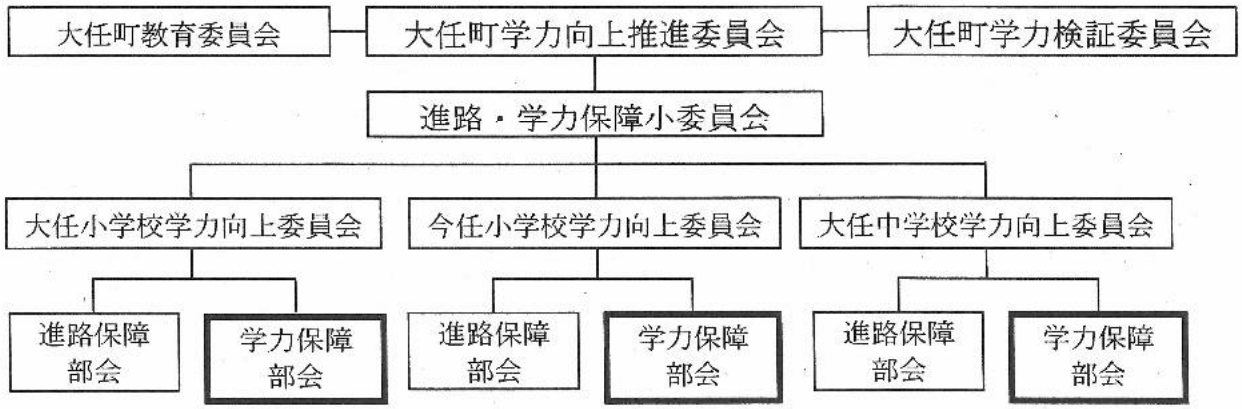
本町における全国学力・学習状況調査の平均正答率は、小学校・中学校ともに全国平均を下回っているのが現状である。その原因の一つとして、家庭学習の習慣が定着していないことが考えられる。

平成27年度全国学力・学習状況調査での生徒質問用紙を見ると、平日に授業以外の学習を全くしない・30分より少ないと解答した生徒は、中学校3年生で27.8%、小学校6年生で24.1%にのぼり、全国平均値を大きく上回っている。

そこで、本町では、『大任の子が「30歳になった時に、精神的にも経済的にも自立したおとなになる」ための礎を築く10年計画』を軸に、小中で連携して家庭学習習慣形成のための取組を推進することによって、学力向上を目指した。

■ 取組の組織

1 大任町の組織



■ 取組の年間計画

【年間実施計画】

月	取組内容（中：大任中、大：大任小、今：今任小）
4	3校：「家庭学習の手引き」の作成と配布
6	3校：第1回学力保障部会 中：保護者による家庭学習の評価の実施 今：家庭学習点検カードの実施
7	3校：第2回学力保障部会（一学期の取組のまとめと交流） 中：授業・学習アンケートの実施 大：家庭学習がんばり週間の実施
8	3校：第1回学力検証委員会（一学期の取組のまとめと交流）
10	小中授業交流会（授業：大任小学校） 今：家庭学習点検カードの実施
11	中：保護者による家庭学習の評価の実施 大：家庭学習がんばり週間の実施
12	3校：第3回学力保障部会（二学期の取組のまとめと交流） 3校：第2回学力検証委員会（二学期のまとめと交流、指導主事からの指導・助言） 中：授業・学習アンケートの実施
2	3校：第4回学力保障部会（小学校卒業生への宿題作成、今年度のまとめ） 今：家庭学習点検カードの実施 大：家庭学習がんばり週間の実施
3	3校：第3回学力検証委員会（年間総括、次年度の方向性検討）

■　取組の工夫点

1　学校間の連携
2　家庭学習の方法や内容を具体化したこと
3　家庭学習に関するアンケートを行い、家庭学習への意識改善を図ったこと

■　取組の実際

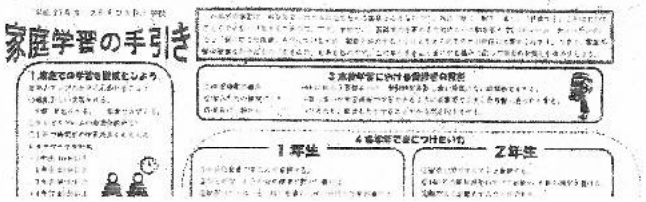
1　学校間の連携の取組

『大任の子が「30歳になった時に、精神的にも経済的にも自立したおとなになる」ための礎を築く10年計画』を策定し、就学前年度から中学校卒業までの10年間を見通した、学力向上施策を実施している。その中の家庭学習の項目に従って「家庭学習の手引き」を作成し、校区内の全児童生徒に配布した。各学年の学習時間や学習の仕方だけでなく、学習環境づくりや家庭学習における保護者の役割についても記載することで、生徒への家庭学習指導だけでなく、保護者への啓発としても活用した。

2　家庭学習の方法や内容を具体化するための取組

（1）小学校

各学年の発達段階に配慮し、『家庭学習の手引き』の中に「各学年で身につけたい力」を具体的に記載した。自主学習の例も記載し、児童が自分で考えて家庭学習に取り組めるようにした。



資料1　家庭学習の手引き（小学校）

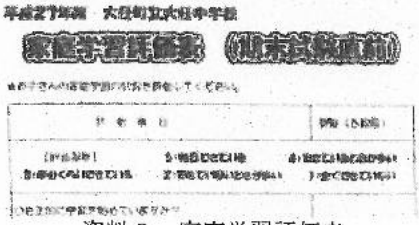
また、今任小学校では、『全校家庭学習プリント』を作成し、週末課題とした。週明けすぐに採点し、その日中に児童へ返却し、達成感を味わえるようにした。内容についても検討を重ね、国語であれば言語事項に絞るなど、児童の実態に即した問題づくりを行った。

（2）大任中学校

全学年、自学ノート・英単語マラソンを毎日の課題として与え、家庭学習の習慣化を図った。自学ノートの内容については各学年で協議し、内容の改善を図った。

3　家庭学習に関するアンケートを行い、家庭学習への意識改善を図る取組

大任小学校では7月、11月、2月に「家庭学習がんばり週間」を1週間設け、児童に毎日の家庭学習の状況を記入させた。その際、目標時間を設定させたことにより、目標をもって家庭学習に取り組むことができた児童が多かった。今任小学校では、6月、10月、2月に『家庭学習点検カード』を保護者に配布し、10日間の家庭学習の学習時間や内容、様子について点検をしてもらうことで、児童だけでなく、保護者の家庭学習への意識向上を目指した。大任中学校でも同様に、保護者へ『家庭学習評価表』を配布し、家庭学習の様子を評価してもらうと同時に、保護者への啓発も行った。これらの取組を通して、保護者の家庭学習への意識を高めることができた。



資料2　家庭学習評価表

■　取組の成果と課題

【成果】

○　中学校で行った授業・学習アンケートでの家庭学習時間が3年生で平均20分から56分へ増加した。

○　小学校での『家庭学習がんばり週間』では、全体の8割ほどの生徒が目標時間を達成することができ、家庭学習が習慣化されてきている。

【課題】

●　家庭学習の内容については、上級学年（小学校から中学校）へつながるような改善が必要である。

平成２７年度　ふくおか学力アップ推進事業

学力向上推進強化市町村

北九州教育事務所管内

○　直方市　　○　水巻町

北筑後教育事務所管内

○　うきは市　　○　大刀洗町

南筑後教育事務所管内

○　大牟田市

筑豊教育事務所管内

○　田川市　　○　嘉麻市　　○　桂川町　　○　香春町　　○　添田町

○　糸田町　　○　川崎町　　○　大任町　　○　赤村　　○　福智町

京築教育事務所管内

○　みやこ町　　○　築上町　　○　吉富町外一市中学校組合

以上　１８市町村（平成２８年度まで学力向上強化推進市町村指定の予定）